はじめに

早稲田大学の現代文にて合格点を獲得するための対策講座です。

記述よりも選択肢問題が主な私大タイプとしては、早大現代文は上智大と並んで、**日本最高難度**です（慶應義塾大学は、「国語・現代文」ではなく、小論文を課します）。難易度が日本最高水準と言っても、**かつてと違い**、おおむね二十一世紀以降の早大現代文は、**〝まっとうな難しさ〟**と言えます。かつては、本文に書いてあることからの論理的な判断や正当な推測がきわめて困難な選択肢問題などがしばしば見られました。答えとその根拠は出題者しか知らないというような問題です。そのため、入試問題の解答解説を刊行している各出版社や予備校ごとに「正答」とされるものが異なるなどという事態も、よくありました（センター試験と異なり大学自体は、正解を発表しませんので）。

近年は、そうした**奇問は、ほぼ姿を消した**ようです。したがって、**〝正当な現代文〟の力**が試されています。そこでは**抽象度の高い文章**を読みこなし、**微妙に見える選択肢から最適なものを吟味する力**が問われています。ゆえに、本講座においても実際の早大の過去問題を素材にし、そうした力に磨きをかけられるように講義しています。

また、**学部ごとの個性**があるということも早稲田大入試の特徴です。そのため、本講座でもそうした、**特徴の特に強い学部**を中心に構成しています。例えば、関連した複数の文章を一度に課す文化構想学部、記述を課す法学部、近代文語文を課す政治経済学部や文化構想学部などです。なお、文学史の教養を問うのも文学部ではなく政治経済学部の特徴です（ごくまれに出題しない年度もありますが）。そこで、**文学史過去問題の総復習とそれにもとづく予想問題**をつけました。

勘や運や感覚に頼らない、論理的な文章の理解力や言葉を吟味する力は、大学にてそれぞれの専門に進んだ際にも、専門書が読める力、論文を書ける力として役立つことは言うまでもありません。また、将来、職業人になるにしても、教養ある職業人として企業や社会に貢献しつつ自らを高めるためのベースメントでありつづけます。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ノートの取り方

テキストへの書き込みが基本です。赤／青／緑（黒板では緑ですが、第三の色であれば何色でもＯＫ）**の三色をご用意ください。**文章の対比を色分けして塗っていきます。主役キーワードが赤、敵役キーワードが青、脇役キーワードが緑です。

解法の手順……**文章（論説も小説も）は、すべて対比とその言い換えの連鎖からできている。そうであるならば……**

少しでもはやく確実に読解するために

1　本文末の**書名＝タイトルをみる　→　テーマが判明**することが多い。さらには、「○○と△△」というようにいきなり**対比発見のてがかり**をくれることもある（ただし、早稲田の現代文では、筆者名も書名も隠されることが多い）。

2　**設問の傍線部と問題文**をざっと読み、キーワードの見当をつける（**設問は本文のキーワードにかかわる**ことが多い）。タイトルの次は「キャスティング＝配役＝誰が出演するのか」に注目。本編の前に「エンドロール」を見てしまう感じです。ただし**選択肢まで読んではダメ**。五択で四つは誤りの選択肢なのだから、先に読むと歪んだ先入観ができてしまう。もっとも全選択肢の書き出しが共通ならば、そこは先に見てもよい。

3　**本文最後の数行をさきに**目を通し、テーマおよび結論、キーワードと対比の見当をつける。

4　**本文を冒頭から読み、**設問の傍線部にあたるたびに、選択肢を読み、その時点でしぼれるものはしぼる。ただし問いの約半数は全文を読みとおさないと解答できないから、読んでいる途中で判断できないものは先送りにする。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

記述式問題解答へのガイドライン

1　**字数指定の八割以上書く**ことがのぞましい（「五十字以内で説明せよ」という設問なら四十字以上書く）なお、指定字数の半分（五割）に満たない場合は、採点の対象とならないことが多い（つまり0点）

2　記述解答の採点は、**原則的に加点制（ポイント制）**（キーワード・キーフレーズごとに得点を与える。つまり、余分なことを書いたとしても減点はされないのが普通だから、字数の許す限り、重要と思った語句を記入してやる）

3　**誤字・脱字・略字**はそれぞれ1点減点（とくに略字は印象悪いよ！）

4　**「理由はなにか」「なぜか」**などの問いかけに対しては、「～から。」「～ので。」「～ため。」など理由を示す語でしめくくる。そうでないと、1点減点。逆に、理由を求めている設問ではないのに「から」「ので」「ため」でしめくくると減点だよ。

その他解答欄・解答用紙に関する諸注意

a

	人	間	は	…

→　※**「原稿用紙」ではなく「解答欄」**だから最初のマスを空ける必要はない

b

…	…	…	こ	と

→　**※句点なし！**（1点減点）

設問文に「句読点も字数にかぞえる」とある場合、文末には必ず句点（。）をつける・句読点をかぞえるという指摘がない場合でも、「説明終わり」の印として句点（。）をつけるのが原則

ただし、「抜き出せ」という設問の場合は、当然本文のまま（余分なものは付けない）

c

…	…	…	こ	と。

→　**※句読点は一文字分！**（1点減点）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

より本質的な記述問題への解答の仕方〈答案に盛り込むべき要素〉

> ○具体例は原則としてカット。よりまとまった表現を解答に盛り込むべし！
> ○対比の表現（AではなくBである）！
> ○繰り返し、言い換えられている表現は大事。ただし一本化！

抜き出し問題の諸注意……「語」「語句」「一文」などと表記されているものの範囲について

○「語」＝「一単語」・「ワン＝ワード」・「一品詞」（ただし「一文字」とは限らないからね！）

○「語句」＝複数の単語もありうる。「語」よりも広い概念。「部分」と表記されることもある。

○「一文（文）」＝句点（。）で区切られるまとまり。

（例）

語 ⇐ 心身

語句 ← 心身の一体性

［心身の一体性、すなわち、身体が真に身体としてあるとき、身体は「外部」的ではない。］この考察は、「道具」を見直す契機になる。

⇒ 一文・文

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

誤りの選択肢の典型例一覧　〈誤りに名前をつけられるほどのパターンがある！〉

1 **対比混乱の誤り**……本文中で**対比・区別**されていることばを同種のものとして扱ってしまっている誤り。あるいは、主役キーワードの説明を求めている設問で、敵役キーワードを挙げている誤り。**キーワードのグループ分け失敗**の選択肢といってもいい。

2 **同一性分断の誤り**……本文中で同種のことばを対比であるかのように扱ってしまっている誤り。これも**キーワードのグループ分け失敗。同質性分断**ともいう。

3 **正しい対比喪失の誤り**……本文中で「**A↔B**」という対比で記述されているのに、無関係な「C」という要素を勝手にもちこんだり、「**C↔D**」といった本文にない対比をもちこんでいる誤り。例えば、本文は「**善↔悪**」という対比で書いているのに、「美」や「醜」という無関係な対比をもちこみ、本文の正しい対比を見失っている誤り。

4 **不当な全称判断**……本文中の記述がないのに、「**すべての○○は**」「**あらゆる○○は**」と勝手に拡張している誤り。類似した誤りとして**不当な一般化**があります。例えば本文では「バラ」という個別のものに焦点を当てているのに、「花というものは」などと拡張している誤り。

5 **不当な限定判断**……本文中の記述がないのに、「**○○のみ**」「**○○だけ**」と勝手に縮小してしまっている誤り。類似した誤りとして**不当な矮小化**（わいしょうか）があります。例えば本文では「人間関係全般について」書いてあるのに、「近所づきあい」の次元を書いている選択肢。話を不当にちっぽけにしているわけです。

6 **不当な価値判断**（不当な当為（とうい）判断）……本文では「○○である」「○○だ」という事実判断をしているのに、「**○○であるべきだ**」「**○○にしなければならない**」「**○○する必要がある**」と勝手に改変してしまった誤り。またAとBの特徴の比較をしているだけなのに、**Aの方が優れているといった優劣を持ち込んだ**選択肢の誤り。特に論文を読んだり書いたりする上で、「事実判断と価値判断（当為判断）」との違いには気を使う必要があるんだよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

7 部分的指摘の誤り ……本文中では、「AともにB」「Aと同時にB」「AしかもB」と追加表現がなされているのに、「A」だけ、あるいは「B」だけを扱ってしまっている誤り。本文の記述にまったく反しているわけではないため、「高度な」誤りといえます。こういうものに気づけるようになることが、現代文での高得点のカギだよ。

8 記述に反する誤り ……文字通り、本文中の記述に真っ向から反する選択肢。例えば本文では「AはBである」としているのに「AはBではない」としている誤り。

9 記述なし ……文字通り、本文中の記述にはいっさい書いてない内容を勝手にのせている選択肢。ただし、「本文の記述に反しているものを選びなさい」といった間違い探しの設問のとき、本文には書いてないだけで、間違いとはいえないということがあるから注意。つまり、「誤り」としては1～8・10～12のほうが深刻な誤りといえ、そちらを優先する。

10 文脈喪失の誤り ……文章中で特定の意味づけをして使っていることばを、**文脈外の「常識」や辞書的な意味**で扱ってしまっている誤り。例えば、「飛躍」ということばを、本文は「行き過ぎ」「誤解」という意味付けをして記述しているのに、勝手に「発展」「前進」というようにとらえてしまっているもの。

11 物理的スリカエの誤り ……**心理や気持ちを問うている設問で、物理的に説明している選択肢**。小説問題の選択肢としてよく出ます。例えば「暗い気持」を天候や日照量の説明にしてしまっている誤り。

12 比喩を文字通りに解釈した誤り ……本文中で、たとえになっている表現（擬人法もふくむ）を文字通りにとってしまった選択肢の誤り。比喩は立派な表現技法です。これをリアルに解釈するとずいぶんおかしなことになります。例えば「いやー、歩きつかれちゃって、膝（ひざ）がわらってるよ」なんて表現があるけど、ホントに笑ったら怖い！

13 具体例は、一段、落ちる ……具体例を挙げている選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない。もっとまとまった語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

14 比喩による説明は、一段、落ちる ……たとえで説明している選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない。もっと明示的な語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

予習の仕方

……必ず予習しましょう。映像講義を視聴しているだけでは、解答力は身に付きません。その上で、以下のようなプランが考えられますが、プランCをオススメします。

プランA……映像授業を見る前にまず、自力で解答する
プランB……映像のチャプター1（タイトルと設問条件解説・最終段落先取り読み）まで見てから映像を止めて、解答する
プランC……第一講までプランBで、解法の手順をしっかり学んだ後、第二講からプランA
プランD……現代文があまり得意ではない方は、第二講以降、AとBを交互に繰り返す。例えば、偶数の講義ではプランA、奇数の講義ではプランBというように

予習の時間

＝問題にアタックする演習時間

各講二十五分が基本です（ただし、以下のようなアレンジも可能です。パターンCがオススメです）。

パターンA……右の基本時間通り
パターンB……時間設定にとらわれず、納得いくまで解答する
パターンC……基本時間通りで解答する講と、じっくり納得いくまで解答する講を交互に繰り返す。時間設定を気にするあまり、読み方や解法が雑になっては元も子もありません。かといって悠長に構えすぎてもダメ。本来入試は時間限定付きですから。そこで、じっくり解く回と本番を想定した回を交互に組み合わせましょう。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目標得点

……配点はしてありませんから、その講義ごとに、全何題中いくつできたのか、という得点率

（例えば第一講なら全部で六題ありますから、四つ以上が正解なら六十五％以上の得点率で目標クリア）

○　第一講～六講……**六十五％以上**

○　復習問題…………**八〇％以上**

復習の仕方について

予習と授業が柱ですが、復習するなら……

設問をもう一度解き直すというタイプの復習はオススメできません。勉強したような気になるだけで、現代文の場合、発展的な学習とは言えない。現代文入試問題での読解力・解答力を向上させるためには、同じ問題を解き直すのではなく、授業をモデルとして、問題集などで新しい問題に次々チャレンジしていきましょう。スタディサプリでも多くの講座が用意されています（早大の過去問を使っている講をまとめたページがあります。参考にしてください）。その文章・設問も対比で読める・解けるようにする訓練を続けることが有効です。

おすすめの問題集

『私大編　現代文のトレーニング　改訂版』（Z会出版）
『入試現代文へのアクセス　発展編』（河合出版）
『入試現代文へのアクセス　完成編』（河合出版）
『入試精選問題集　現代文』（河合出版）

教材選定について

- すべて早稲田大学の過去問の中から良問をセレクト
- 早大現代文のモデルとなる設問をセレクト。アタックすることを通じて解答力を高められる設問ばかり。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

既存講座の早稲田大学現代文――こちらも合わせて活用してください――

高3　トップ&ハイレベル現代文

★第一講その1…政治経済学部（テーマ＝民俗学）
★第九講………スポーツ科学部（テーマ＝民俗学）
★第十四講……文学部（テーマ＝文学論・演劇論）
★第十七講……スポーツ科学部（テーマ＝身体論・芸術論）
★第十八講……国際教養学部（テーマ＝文学論）
★第十九講……政治経済学部（テーマ＝学問論）
★第二〇講……法学部（テーマ＝日本文化論・音楽論）
★第二十三講…政治経済学部（テーマ＝日本語論・翻訳語論）

高1高2　現代文

★第一講その2…人間科学部（テーマ＝認知科学論・時間論）
★第十一講……人間科学部（テーマ＝宗教論・日本文化論）
★第十四講……教育学部（テーマ＝道に関する随筆）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

早稲田大学　国語入試問題の学部別系統

※設問数は年度毎に微増微減がある

文学部《現代文(論説)／現代文(論説)／古文／漢文》……………全二十八問……試験時間九〇分・配点七五点

文化構想学部《現代文(論説が複数)／現代文(論説)／現古漢融合》……全二十四問……試験時間九〇分・配点七五点

人間科学部《現代文(論説)／古漢融合》……………………………全二〇問……試験時間六〇分・配点五〇点

スポーツ科学部《現代文(論説)／現代文(論説)／古漢融合》……………全二〇問……試験時間九〇分・配点七五点

教育学部《現代文(論説)／現代文(論説)／古漢融合》……………全二十九問……試験時間九〇分・配点五〇点

国際教養学部《現代文(論説)／現代文(小説)／古文》……………全十九問……試験時間六〇分・配点五〇点

政治経済学部《古漢融合／現代文(論説)／現代文(論説・記述あり)》……全二十九問……試験時間九〇分・配点七〇点

法学部《古漢融合／現代文(論説)／現代文(論説・記述あり)》……全二十一問……試験時間九〇分・配点五〇点

商学部《現代文(論説)／古漢融合》……………………………全十九問……試験時間六〇分・配点六〇点

社会科学部《現代文(論説)／現古融合》……………………………全二〇問……試験時間六〇分・配点四〇点

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目　次

第一講　文化構想学部　文芸論……p. 13
第二講　文化構想学部　認識論・科学論……p. 21
第三講　法学部　学問論・弁証法……p. 28
第四講　文学部　芸術論・建築論……p. 36
第五講　商学部　近代化社会論……p. 43
第六講　政治経済学部　芸術論（近代文語文）……p. 50
政治経済学部　文学史過去問題総復習／予想問題……p. 56

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　文化構想学部　文芸論

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

ひとことで言えば、それは郷里の風景に似ていた。はじめての道路を走っているのに親しさの度は徐々に高まり、きっとあの辺にありそうだと感じた予想どおりの場所に、窯（かま）の存在を示す細い煙突が何本かあらわれた。萩（はぎ）のほうにむかっていることは旅程表でわかっていたけれど、陶土の出そうな山の姿や工房の場所にこれほど共通した［ a ］があるとは思いもしなかったのだ。

子どものころ、ときおり自転車で遊びに出かけていた友だちの家の裏山に、大きな煉瓦工場があった。細い坂道をのぼりつめた先の敷地にあった工場の、庇（ひさし）のある搬出口に積まれた煉瓦の山をつかって、私たちは守衛のおじさんに叱られながらよく遊んでいたし、じつを言えばこれもまた学校行事の一環だったのだが、窯の様子などを解説つきで見学したこともあるものだから、バスの窓の外にひろがる萩近郊の風景に記憶のなかの工場周辺とそっくりな地形を発見し、発見したばかりでなくあきらかに煉瓦を焼いている建物まで確認した私は、マイクを手にしたうるわしい訛（なま）りのあるバスガイドさんの差配ではなく A 修学旅行の神が与えてくれた偶然の差配のほうに、ひそかに感謝していた。陶器の工房や煉瓦工場がどうのということではない。それらをとりまく地形にはなんとも言えない安堵感があったのだ。しかし、その感覚はまた、道中に強いられるつまらない余興ともべつの位相で、「退屈」と評すほかないものだったのである。［ イ ］当時の私は、この「退屈」の質の相違に、きちんと言葉を与えることができなかった。

ところで、先般、その「退屈な」風景に出会わせてくれた山口県を、二十数年ぶりに訪れる機会があった。山口市湯田温泉でおこなわれる中原中也賞授賞式の「余興」として、なんでもいいから夭折の詩人にかかわる話をしてほしいと頼まれたのが前年秋のこと、私はちょうどジョルジュ・ペロスという詩人について脈絡なくつづった評伝ふうの作品を上梓したばかりだったのだが、このペロスの作品に「退屈さについて」と題された断章群があって、拙著の最後に、「日曜日は退屈である。だれにとっても日曜日だから」という一節を引用していたためか、なにを読んでも私の目は「退屈」の二文字に反応していたらしい。［ ロ ］おなじころ刊行された『新編中原中也全集』の、評論と小説が収録された第四巻をぱらぱら開いているうち、「普通に人々が、

© RECRUIT HOLDINGS

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

この景色は佳(よ)いだのあの景色は悪いだのと云ふ、そんなことは殆(ほと)んど意味もないことだ。人の心の奥底を動かすものは、却(かへ)って人が毎日いやといふ程見てゐるもの、恐らくは人々称(よ)んで退屈となす所のものの中にあるのだ」という、中也の自伝的エッセイ「一つの境涯」の冒頭に掲げられているエピグラフに引きつけられたのも、たぶんそのせいだろう。「筆者不詳」と断り書きがあるものの、これはどうやら中也自身の創作らしい。しかし私は、なぜかふと、これが、西洋語で書かれた作品の一部を中也が翻訳もしくは翻案したものだったとしたら、だれの言葉に近いだろうかと妄想をたくましくし、「退屈」ではなく「景色」の一語を手がかりに、ジンメルの「風景の哲学」を読み返したのだった。

景色とは主に自然のありさまを指す言葉であり、他方、風景とは、自然にかぎらず、なんらかの趣をそこに読みとっての、見る側の主観の入った言葉である。［ハ］ジンメルによれば、風景とは自然のなかの局限であって、われわれが自然の景物の「総計」ではなく確実に風景を見ているとき、結局のところ、その作業は絵画を描くのとおなじことになるという。

　風景は個別性のうちに閉じこもり、自足していながら、しかも何の矛盾もなしに、自然の全体と統一に密着している。ただしその際否定しがたいのは、「風景の成立」がもっぱら以下のような筋道をたどって行われるということである。直観と感情のうちに脈々と生動している生が、自然の統一から身をもぎ放す。しかしそうして作りだされ、全く新しい層に移送された特別な形象は、いわば初めて自発的に全体の生におのれを開き、隙間のないその境界の中へ、無限なるものを受け入れる、という道筋で。

（ジンメル「風景の哲学」川村二郎訳）

むずかしい言い方だが、おおもとにあるのは、風景がひとつの精神的な［b］だという一点であり、まちがいなく存在しているにもかかわらず、現実にはけっして触れえない空間であるとの認識だろう。景色が風景になったとき、それは乾いた地肌を見せる粘土質の山や灌木の繁み、煉瓦干しの棚や窯のうえの煙突といった事物から具体性をひきはがして、こちらの創造力との関係性のなかでしか生まれえない架空の磁場になっている。「すでにある外の世界とわれわれの創造性とのもつれ合い」とジンメルは表現しているけれど、私が眠い目で見ていたバスの車窓風景は、もっとありきたりな景色に近く、創造性などこれっぽっちもないただの合成画像のようなものだった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

しかし同時に、ただ眠さのゆえばかりではない気分が道中の景色にはあって、その気分がどこかべつの場所で嗅いでいた気分にひどく似ていると感じたことは、はっきり身体のなかに残っている。そして、その気分にいちばん近い肯定的な言葉が、私にとってはどうやら「退屈」に当たるようなのだ。［ニ］「一つの境涯」と、十代なかばの集団「余興」のさなかに意識した、乾いた粘土のような気分が曖昧に混じりあったのは、このような順序を踏んでのことで、授賞式の「余興」に使える材料としては、だからあの煉瓦工場が登場する『在りし日の歌』の「思ひ出」しかなかったのである。

岬の端には煉瓦工場が、
工場の庭には煉瓦干されて、
煉瓦干されて赫赫してゐた
しかも工場は、音とてなかつた

煉瓦工場に、腰をば据えて、
私は暫く煙草を吹かした。
［c］ぼんやりしてると、
沖の方では波が鳴つてた。

あたたかい春のはじめの陽射しを浴びた煉瓦工場。山間ではなくてこれは海に近い場所だから、私が退屈するほど遊んでいた煉瓦工場の周辺とは大気の質も空のひろさもちがうけれど、このあたりを視野に収めるために、語り手の「私」はどんな位置に立ち、どんな角度から見ているだろうか。海と煉瓦工場をふたつとも視野に収めるには、岬の端を見下ろす感じで高台に立っていなければならないはずだが、詩の記述にしたがえば、その後移動して敷地に入り、どこかに腰を下ろしているのもあきらかだから、ここには時間だけではなく空間の移動もある。煙突のうえは空、岬の先は海、そして、周囲には海のかおりを抑えるように、焼きしめた粘土のにおいが漂っている。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ともあれ、詩のなかで時間がゆがみながらも進展し、煉瓦工場のある岬の突端は、「私」のなかでたしかな風景に育てられていく。煉瓦はひとつずつ焼かれ、乾かされ、積みあげられて、べつの建造物に生まれ変わるのだ。ここで煉瓦を言葉に置き換えるなら、「思い出」のうるわしい退屈さは、言葉を生産する工場が廃墟となっていく過程の、正当な風景化のなかにこそあるといえるだろう。［ホ］

（堀江敏幸（ほりえとしゆき）「煉瓦工場の退屈」による）

問1　文章中の［a］に入るもっとも適当な語句を次の中から選べ。

イ　におい　　ロ　しめり　　ハ　くらさ　　ニ　ひびき　　ホ　にじみ

問2　傍線部Ａ「修学旅行の神が与えてくれた偶然の差配」を説明しているもっとも適当なものを次の中から選べ。

イ　修学旅行で行った土地を二十数年ぶりに訪れる機会があり、以前に味わった気分の意味が偶然のように理解できたということ。

ロ　子どものころに遊んだのと同じような煉瓦工場を歌った詩を、二十数年後に用いて話をする機会にめぐりあわせたということ。

ハ　修学旅行の際におこなった余興の退屈さと同質の気分が、詩人のエッセイのなかに書かれているのを偶然発見したということ。

ニ　修学旅行のバスでの移動の際の退屈しきった気分を、バスの車窓からたまたま目にした景色が吹きはらってくれたということ。

ホ　修学旅行で訪れたのがたまたま故郷と同じく陶器や煉瓦を焼く土地で、土地勘がはたらくほど風景が酷似していたということ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問3　次の文は、本文中に入るべきものである。［イ］〜［ホ］からもっとも適当な箇所を選べ。

だから日常目にしている景色を退屈だと感じた瞬間、景色は景色であると同時に、風景になる。

問4　文章中の［b］に入るもっとも適当な漢字二字の語句を、「風景は個別性のうちに閉じこもり」で始まるジンメル「風景の哲学」の引用部分から抜き出し記せ。

問5　文章中の［c］に入るもっとも適当な表現を次の中から選べ。

イ　煉瓦眺めて　　ロ　陽射し浴びて　　ハ　煙草吹かして
ニ　波音聞いて　　ホ　潮の香嗅いで

問6　本文に書かれていることから推論不可能なものを次の中から一つ選べ。

イ　筆者は中原中也の詩集『在りし日の歌』のなかで「思ひ出」が好きである。
ロ　筆者は修学旅行の集団余興のたぐいを楽しく愉快なものとは思っていない。
ハ　筆者は修学旅行の際感じた風景の退屈さの質について十分に理解している。
ニ　筆者は煉瓦も言葉も何かを構築するものだがやがて変質してゆくと考える。
ホ　筆者は日々繰り返されるような退屈さの中に捨てがたい魅力を認めている。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　堀江敏幸＝ほりえ　としゆき（一九六四〜）岐阜県生まれ、早稲田大学第一文学部フランス文学専修卒。その後、東大大学院、パリ第三大学で学ぶ。芥川賞受賞作家にして早稲田大学教授。慶應大文学部の小論文でも登場しています

●中原中也＝なかはら　ちゅうや（一九〇七〜一九三七）山口県生まれ、詩人。詩の雑誌『四季』『歴程』の同人。代表作に『山羊(やぎ)の歌』（汚れっちまった悲しみに……はこの中にあります）『在りし日の歌』

●ゲオルク・ジンメル（一八五八〜一九一八）ドイツの哲学者。『貨幣の哲学』も有名

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

語句

一環＝いっかん↓全体のなかのある部分。「教育の一環として文化祭がある」というと、四月の年度始まりからスケジュール化された一連の学校行事の一部として、文化祭が行われるということ。「一貫」は、初めから終わりまでを貫くもの。「首尾一貫」

差配＝さはい↓指図して、取り仕切ること。管理すること

余興＝よきょう↓宴会などの場を盛り上げるための芸

位相＝いそう↓位置取り、位置づけ。次元、フェーズ

同音異義語　移送＝いそう↓場所などを移動すること、移し変えること

酷似＝こくじ↓そっくりなこと、非常に似ていること

夭折＝ようせつ↓若くして世を去ること。夭逝（ようせい）と同じ

拙著＝せっちょ↓「拙」は「つたない・未熟」という意味で、自分の著作物を謙遜して、ひかえめに言う表現。自分の息子を「愚息（ぐそく）」、自分の奥さんを「愚妻（ぐさい）」と呼ぶのも同様のへりくだりで、本気で言ってるわけではない。当然、妻が夫を表現する際には「愚夫（ぐふ）」となるはずですが、辞書には載ってない。ちなみにモビルスーツではない

上梓＝じょうし↓本を出版すること。刊行

エピグラフ↓序文や前書きのこと。石碑などに刻む碑文という意味もある。エピグラムは風刺や警句（簡潔で気のきいたことを言うこと）

翻案＝ほんあん↓アレンジ。原作の大筋は生かしながら改作すること。四字熟語で言うと換骨奪胎（かんこつだったい）

形象＝けいしょう↓表現されたもの、心に浮かぶイメージ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第一講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）旅テイ表をたしかめる　①態　②底　③程　④提　⑤定

（イ）荷物のハン出口　①搬　②班　③伴　④般　⑤販

（ウ）学校行事の一カンをなす　①貫　②観　③巻　④環　⑤管

（エ）東京近コウの風景　①行　②効　③交　④航　⑤郊

（オ）ヨ興で盛り上がる　①世　②夜　③余　④与　⑤予

（カ）原作をホン案する　①翻　②本　③汎　④反　⑤奔

（キ）合セイ画像を分析する　①生　②成　③制　④製　⑤性

（ク）モウ想をたくましくする　①猛　②妄　③盲　④蒙　⑤孟

（ケ）作家のキョウ涯を描く　①興　②教　③経　④境　⑤鏡

（コ）物語が進テンしていく　①転　②典　③展　④天　⑤点

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　文化構想学部　認識論・科学論

次のA・B二つの文章を読んで、あとの問いに答えよ。なおAはBを踏まえて書かれたものである。

A

パリとロンドンを往復したたくさんの書簡において、熊楠（くまぐす）が書いていることの中でも、もっとも重要なのは、(イ)事という概念をめぐる彼の思考である。ここには、とても現代的な思考法を、みいだすことができる。熊楠はその考えを、まず自分の考える学問の方法論として、語り出している。

熊楠の考えでは、(1)事は心と物がまじわるところに生まれる。たとえば、建築などというものも、事である。その場合、建築家は自分の頭の中に生まれた非物質的なプランを、土や木やセメントや鉄を使って現実化しようとするだろう。建築物そのものは物だけれども、それは心界でおこる想像や夢のような出来事を実現すべくつくりだされた。つまり、それはひとつの事として、心と物があいまじわる境界面のようなところにあらわれてくる現象にほかならないことになる。

このプロセスは、もっと精密に研究してみることもできる。建築家は設計図を描く。そして、その設計図をもとにして、建築の物質化が実行される。このときの設計図もまた、事なのである。設計図は、建築家の頭の中に浮かんだアイディアを、明確な構造をもった透視法の中に定着させるものだ。ここでは「設計図の描き方」という表現法自体が、アイディアの物質化をたすけている。だから、そこでも心と物が、出会っている。そうなると、建築という行為そのものが、幾重にも積み重ねあわされた(ロ)事の連鎖として、できあがっていることがわかる。記号や表象が関係しているものは、こうして考えてみると、すべて事なのだということが、はっきりしてくる。

いまの学問にいちばん欠けているものは、この(ハ)事の本質についての洞察だ、と熊楠は考えた。彼の考えでは、純粋なただ心だけのものとか、純粋にただ物だけのもの、というのは、人間の世界にとっては意味をもたず、あらゆるものが心と物のまじわりあうところに生まれる事として、現象している。しかも、心界における運動は、物界の運動をつかさどっているものとは、違う流れと原理にしたがっている。このために物界では、因果応報ということが確実におこるのに、純粋な心界でも因果応報がお

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

こるとは限らないのだ。たとえその人の心に悪い考えがおこったとしても、その考えが物界と出会って、そこにたしかな[ニ]事の痕跡をつくりだし、物界の流れの中に巻き込まれてしまうことがなかったとしたら、そのことだけでは、けっして将来に報いをつくりだすとは限らない。

事は異質なものの出会いのうちに、生成される。そして、[2]その事が、ふたたび心や物にフィードバックして働きかける過程の積み重ねとして、人間にとって意味のある世界は、つくりだされてくる。熊楠はこの事の連鎖の中から、ひとつの原則がみいだせるはずだと考えた。

ここで熊楠が考えていることは、とても大きな現代的な意味をもっている。まず彼は、人間の心の働きが関係するいっさいの現象についての学問にとって、いちばん重要な意味をもつのは事であるけれども、この事は対象として分離することができない構造をもっている、と言っているのだ。心界におこる動きが、それとは異質な物界に出会ったとき、そこに事の痕跡がつくりだされる。しかし、その事はもともと心界の動きにつながっているものだから、心界の働きである知性には、事を物のように対象化してあつかうことはできないのだ。しかし、その分離不可能、対象化不可能なダイナミックな[ホ]運動である事をあつかうことができなければ、どんな学問でも、自分は世界をあつかっているなどと、大口をたたくことはできなくなるわけだ。

ここには、二十世紀の自然科学が量子論の誕生をまって、はじめて直面することになった「観測問題」の要点が、すでに熊楠独自の言い回しによって、はっきりと先取りされている。心界から独立した、純粋な物界などというものは存在できない。観測がおこなわれるときには、かならず人間の意識の働きが関与している。つまり、どんな物質現象でも、それが人間にとって意味をもつときには、すでに物ではなく、心界と物界の境界面における事として現象しているために、決定不能の事態に陥ってしまうのだ。量子論は[3]パラドックスに満ちた事の世界を記述するための方法を、いまだに探求しつづけている。熊楠は量子論が生まれる三十年も前に、事としてつくりだされる世界の姿をとらえ、それをあきらかにするための方法を、模索しだしていた。

（中沢新一（なかざわしんいち）『森のバロック』による）

注　熊楠……南方（みなかた）熊楠（一八六七～一九四一）。紀州和歌山生まれの生物、民俗、博物学者。
　　観測問題……観測対象は観測によってその状態を変化させることが量子力学（量子論）で明らかにされ、自然科学における観測の位置づけが問われた問題。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

B

電気が光を放ち、光が熱を与うるごときは、物ばかりのはたらきなり。今、心がその望欲をもて手をつかい物を動かし、火を焚いて体を暖むるごときより、石を築いて長城となし、木をけずりて大堂を建つるごときは、心界が物界とまじわりて初めて生ずるはたらきなり。電気、光等の心なきものがするはたらきとは異なり、この心界が物界とまじわりて生ずる事ということにはそれぞれ因果のあることと知らる。その[4]事の条理を知りたきことなり。今の学者、ただ箇々のこの心この物について論究するばかりなり。小生は何とぞ心と物とがまじわりて生ずる事によりて究め、心界と物界とはいかにして相異に、いかにして相同じきところあるかを知りたきなり。

科学のみで今日まで知られたところでは、輪廻（りんね）ということはたしかにあるごときも、科学のさわること能わざる心界に輪廻行わるるや否やという問いには、実に答えに苦しむ。何となれば、小生今日悪念を生じたりとて明日別にこれがために懊悩せず。多くは忘れ終わるものなり。されば物界に生ずる、これこれの水をこれこれの温度にたけば、これこれの蒸気を生じてこれこれの大いさの物を動かすというとは異なり、心界に生ずる現象はあるいはつねに報（むくい）あらぬものにやとも思わる。これをきわむるには、小生一人の心できわむるよりほか仕方ないが、右に申すごとく、心界中のみには輪廻ということは、たしかに小生には見えぬ。

すなわち石が墜（お）ちて瓶（びん）にあたれば、石が因となりて瓶を破るように、今日小生善を思いたればとて、別に思うただけの報を思うものにあらず。また悪念を起こせりとて、別に後日これがため悪事を念（おも）うということもなく、ただ一座なりのようにも思う。ただ心界に感ずる因縁応報というは、心界が物界に接して作用（事）を生ぜし上のことで始めてあらわるるものと思う。すなわち小生が人の物ぬすむは、小生の心が手をつかいて物をぬすむという作用を現出するなり。その返報としては、あるいは小生が人（小生より見れば物）でどやさるること等あるべし。この物心両界が事を結成してのち始めてその果を心に感じ、したがってその感じがまた後々の事の因となるなり。

（南方熊楠「土宜法竜宛書簡」による）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問１　Ａの文章中の傍線部１に「事は心と物がまじわるところに生まれる」とあるが、その例をＢの文章の内容に即して求めるとすれば、もっとも適当なものはどれか。次の中から選べ。

イ　電気が光を放ち、光が熱を与うること
ロ　心がその望欲をもて手をつかい物を動かすこと
ハ　今日悪念を生じたりとて明日別にこれがために懊悩せざること
ニ　これこれの水をこれこれの温度にたけば、これこれの蒸気を生じてこれこれの大いさの物を動かすということ
ホ　石が墜ちて瓶にあたれば、石が因となりて瓶を破るようなこと

問２　Ａの文章中の傍線部２「その事が、ふたたび心や物にフィードバックして働きかける過程の積み重ね」と同じ趣旨のことを述べている一文をＢの文章中に求め、その最初の五文字を抜き出して記せ（句読点があれば、それも一字に数える）。

問３　Ａの文章中の傍線部３「パラドックスに満ちた事の世界」の解説としてもっとも適当なものはどれか。次の中から選べ。

イ　その世界では、人間にとって観察の対象となる物は、観察者の心と分離することができないため、観察に際しては、かならず心の状態を一定に保つことが求められる。
ロ　その世界では、人間にとって観察の対象となる物は、かならず心の側面と物の側面とに分離して考察されるために、ひとつに統合された対象としては扱えなくなる。
ハ　その世界では、人間にとって観察の対象となる物は、かならず異質なものの出会いのうちに生成されるために、ほかの諸物と比較しなければ客観的観察は難しくなる。
ニ　その世界では、人間にとって観察の対象となる物は、かならず観察者自身の心が関与する事として現われるため、観察者から独立した物として対象化できなくなる。
ホ　その世界では、人間にとって観察の対象となる物は、かならず観察者の心の干渉を受け、事の連鎖のうちに投げ込まれるため、観察者は物を事から切り離す必要がある。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問４　Ｂの文章中の傍線部４「事の条理」に相当するもっとも適当な語句をＡの文章中の波線部イ〜ホより選べ。

問５　次の文は、いずれもＡの文章中で熊楠の主張として述べられている内容である。このうち、Ｂの文章中では述べられていないものを一つ選べ。

イ　事は心と物があいまじわる境界面のようなところにあらわれる。
ロ　いまの学問にいちばん欠けているのは、事についての洞察だ。
ハ　人の心に悪い考えがおこったとしても、その考えが物界と出会わなければ、将来に報いをつくりだすとはかぎらない。
ニ　心界におこる動きが、それとは異質な物界に出会ったとき、そこに事がつくりだされる。
ホ　心界から独立した純粋な物界などというものは存在できない。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　中沢新一＝なかざわ　しんいち（一九五〇〜）山梨県生まれ、東京大学文学部宗教学専攻卒。同大学院やチベット留学を経て、現代思想（ポストモダン）、ニューアカデミズムの旗手と評されてきた。宗教人類学者

語句

書簡＝しょかん→手紙

表象＝ひょうしょう→イメージや心の中に浮かべるもの、シンボル。本文では形を得た表現作品といった意味で使っている

フィードバック→電気回路では、出力の一部を入力にもどすこと。増幅装置に使われるしくみ。一般的には、ある原因から生じた物事の結果が、再び原因に作用して新しい結果を生むこと。さらに、学習や仕事でも使います。たとえば、テストの成果や仕事の成果をチェックしてそのよい点や悪い点を分析し、次回のテストや仕事につなげることです

懊悩＝おうのう→深く悩んで苦しむこと

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第二講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

(ア) 作家の書カンを公表する　①問　②観　③巻　④簡　⑤勘

(イ) セイ密な設計図を描く　①聖　②精　③征　④清　⑤晴

(ウ) トウ視図法による表現　①塔　②等　③到　④投　⑤透

(エ) 因果オウ報がおこる　①応　②追　③欧　④往　⑤押

(オ) 事件のコン跡を残す　①紺　②根　③困　④痕　⑤恨

(カ) 学問の方法を模サクする　①策　②索　③作　④錯　⑤削

(キ) 人生に懊ノウし苦しむ　①能　②脳　③悩　④濃　⑤納

(ク) 優れたドウ察力を発揮する　①同　②洞　③動　④導　⑤胴

(ケ) 量子論の観ソク問題に挑む　①則　②即　③捉　④促　⑤測

(コ) 出来事が連サしていく　①差　②査　③作　④鎖　⑤唆

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　法学部　学問論・弁証法

次の文を読んで、あとの問いに答えよ。

学者の変説改論は、学者の無節操を意味するものだといってよく非難される。ところが偉大な学者の遺作を年代順に読んでゆくと、かなり大きな問題についてしばしば大きな変説改論が行われているにもかかわらず、そこに何らの非難すべきものをも感じない場合が多い。著者自ら変説について何らの言訳も言っていないにもかかわらず、変説の過程が極めて合理的に理解できる場合が非常に多い。なまじ自説を固持するために、自らも無理とは知りつつ無理を押し通そうとする学者よりも、何のこだわりもなく、その際自分の感じ、また信ずるところを朗らかに述べている学者のほうに、より多く好感の持てる場合が決して少なくない。無論、いかにも不愉快だと思われる変説改論を見出すこともしばしばある。しかしそれは、根本に確固たる信念を持たずに、四囲を見まわして絶えず時流を追うような——実は学者らしからざる——学者についてのみ見出し得ることであって、真(A)に学者らしい学者は、学者としての進歩につれて、時に大きな転回を行うにもかかわらず、我々はそこに何らの不自然をも発見し得ない。かえって、大きく転回すればするほど、その人の偉大さを感ぜしめる。偉大な学者ほど偉大な転回を遂げつつ、しかも我々に、何らの不自然をも感ぜしめない。そういう偉大な学者の全生涯を通じて行われた思想的転回の跡をたずねて、そこに一貫した合理性を見出すことは、偉大な学者の思想的生涯をその実践としての著作を通して研究する我々にとって、無上の喜びを与えるものである。

法学者としてのイェーリングの名を知る人々は、恐らくは、多く彼を自由法学の先(イ)駆者として知っているに違いない。ところが彼の法学者生活は、先ず「概念と論理構成とを何よりも大事なものと思う」所謂概念法学的傾向から始まっているのであって、彼が自由法学的傾向に転向したのは、ようやく四十四、五歳の頃である。その急角度的転向を、彼は一八六五年四月十八日、多年の論敵であったヴィントシャイトに与えた書簡の中で、極めて直截(ちょくせつ)に告白している。即ち、それまで「概念と論理的構成とを何よりも大事なものと思っていた」イェーリングは、今や「真理に通ずる最後の道は、形式的技術の辺に存するにあらずして、これを通り抜けた彼岸に存する」という大(ロ)悟に徹底して実際生活の要求に背反する法律的論理が出てくるはずがないとい

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

うようなことを、多年の論敵であるヴィントシャイトにむかって大胆にも告白し得る境地にまで発展しているのである。Bその朗らかな態度にはいささかの不自然もない。我々はただ、この言葉の前に頭が下がるだけである。ところが面白いことは、この手紙で「形式法学的の要素の権威をあまりに蔑視し過ぎていた」と批評されているヴィントシャイトが、その後かえって反対に、段々と形式法学的傾向を強くして、終にはドイツ私法学の聖書とまで言われるような大著『パンデクテン法教科書』を書ける学者にまで転化したことである。

　この二人の偉大なる法学者は、互いに論争しつつ、終には陣営を交換して互いに相対立するようなハ交互的転回を遂げたのであるが、こうした現象を、我々は果たしていかに説明すればいいのであろうか。この二人の態度は、一見いかにも不思議に感ぜられるけれども、よくよく考えてみると、むしろ非常に自然である。一体、法学における概念法学的傾向と自由法学的傾向とは、それ自身正反対なものであるにもかかわらず、そのいずれもが法学にとって欠くべからざる要素であって、この偉大な法学者は、論争のうちにこの二つの傾向を実践的に体現したのである。従って二人の論争対立が激しければ激しいほど、それから我々は法学の真面目を感得し得るのであって、彼らは互いに反対の動きを示して学者的全生涯を以て、C法学の真面目を我々に示し教えているのである。

　一体、人間の思想的進歩は、決して［D］的に行われるものではない。我々の心の中には、テーゼ（命題）とアンチテーゼ（反命題）との闘争が行われている。その闘争の結果ジンテーゼ（総合命題）が生まれた瞬間には、それがまたただちにテーゼとなって新しいアンチテーゼを生み、そうしてそれらの闘争が絶えず行われるのであって、それでこそ思想の進歩が可能なのである。そうしてこの闘争のあらわれとしての［E］は、ある一生を通じた大きな波として現れ、またあるいは瞬間的なニ微妙な波動としても現れるのであるが、その波長は、学者が偉大であればあるほど、またその学者が読書と思索とのうちに努力する度合が大きければ大きいほど、大きく現れるのであって、イェーリングとヴィントシャイトとの論争とその間に行われた交互的転回とは、実にこの二人の学者の偉大さを如実に表明するものにほかならないのである。

　我々の小さい体験だけから考えても、我々の心は常にテーゼとアンチテーゼとの闘争で充たされている。そうしてその闘争の波長は、我々がより多く読書し、より多く思索し、またより多く書き、もしくは言う場合に、最も大きくなることを感ずるのである。講義もしくは講演をした経験のある人々は誰しも感ずることと思うが、我々が聴衆にむかって或ることを言った瞬間に、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

我々の脳裡に――それまで全く思いも及ばなかった――今言ったこととは全く正反対な考えが、突如として浮び出すものである。Fそうしてそのことは、講義ないし講演の準備が最もよくできている場合に、最も力強く実現するのである。また文筆に従事する人々は、必ずや、或ることを書いた瞬間にその今書いたばかりのことが反対物になって、瞬間後の己と対立するという事実を体験されるに違いないと思う。無論、この動揺対立の程度は、人によっていろいろ違うらしい。所謂遅筆と言われる人は、まだ書かないうちから心の中で激しい自己闘争を行っているに違いない。書いては消し、書いては原稿用紙を破りながら、熱烈な心理的闘争をやっているに違いない。そうして、不断の闘争を締切期限のために人為的に打ち切られていやいや原稿を手離すのが、文筆に従事する人々多数の経験であると思う。真面目に思索する人々は、恐らく締切期限がないならば永久に原稿を手離さないだろう。ああも考えこうも考え、ああも書きこうも書きつつ、永久に思索を続けるに違いないと私は考えている。

しかし同時に私は、同じ理由から、大きく進歩しようと志す学者は、己自らを絶えずテーゼに固定するように努力すべきだと思う。偉大な思索能力を持つ学者は、言わずともまた書かずとも、己の心の中にテーゼを固定せしめつつ、ただちにアンチテーゼを生んで両者の闘争裡にジンテーゼを生むことができるかも知れないけれども、普通の学者にとっては、現在思っていることを言葉なり文章なりに体現して、それを完全なる外物に固定した上で、それをテーゼとしてただちにそれと心中のアンチテーゼとを闘争せしめたほうが、より容易に進歩を遂げ得るのではなかろうか。私にはどうもそう思われてならないのである。

凡庸な我々は、心の中だけでテーゼとアンチテーゼとを明瞭に対立せしめる能力を充分持っていない。ところが、ひとたび考えを言葉なり文字の上に体現すると、それがただちに己を離れた外物になる。そうしてそれが己を批判もするし、己がまたそれを批判する。かくしてホ相互的批判がただちにジンテーゼを生み出しつつ、そのジンテーゼが更にただちにテーゼとなって、新しいアンチテーゼを生み出す。そうしてそのGテーゼとアンチテーゼとの闘争を克服せんとする努力こそ、学者を進歩せしめるものだと思う。

（末弘厳太郎（すえひろいずたろう）『嘘の効用』より）

問１　傍線Aにいう「真に学者らしい学者」のありように合致する語句として最も適当なものを傍線イ～ホから一つ選び、符号で答えよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問２　傍線Ｂ「その朗らかな態度にはいささかの不自然もない」のはなぜか。その理由として最も適当なものを次のル～ヨから一つ選び、符号で答えよ。
ル　イェーリングが、概念法学からいさぎよく自由法学に改論した態度は、正々堂々としていたから。
ヲ　イェーリングが、四十四、五歳の時期になって学説を転回したのは、学者の全生涯における発展として自然だったから。
ワ　イェーリングが、相手の批判を受けて概念法学から自由法学に変説したのは、学問上の論争の当然の帰結だったから。
カ　イェーリングが、概念法学を捨てて自由法学へ転向したのは、法学の発展として合理的だったから。
ヨ　イェーリングが、偉大な先輩学者に率直に旧説の誤りを告白して学説を転化したのは、好感がもてるから。

問３　傍線Ｃ「法学の真面目」の説明として最も適当なものを次のタ～ネから一つ選び、符号で答えよ。
タ　法理論を形成するに当たって、論争しつつも陣営を交換し、互いの意見を十分に聴きあって理解を高めようと努力するということ。
レ　法理論を形成することの中に、常に現実における実践を導入し、反映させることを努め怠らないということ。
ソ　法理論が実践の中で否応なしに変化することを自覚し、かつその際助けとなった相手に対して敬意を払うということ。
ツ　法理論の発展は、単純に積み上げられることによってではなく、論争に由来する曲折を経て実現されるということ。
ネ　法理論においては整合性が重要であり、そのために探求は概念法学的傾向と自由法学的傾向のどちらかに決着するということ。

問４　空欄ＤとＥに入る語句の組み合わせとして最も適当なものを次のナ～ヰから一つ選び、符号で答えよ。
ナ　Ｄ　概念　　Ｅ　体験
ラ　Ｄ　瞬間　　Ｅ　遅延
ム　Ｄ　直線　　Ｅ　動揺
ウ　Ｄ　心理　　Ｅ　実践
ヰ　Ｄ　一方　　Ｅ　交換

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問5　傍線F「そうしてそのことは、講義ないし講演の準備が最もよくできている場合に、最も力強く実現する」のはなぜか。その理由として最も適当なものを次のノ〜マから一つ選び、符号で答えよ。

ノ　準備ができていると、考えていることが言葉あるいは文章として外在化され、対象化されやすくなるから。

オ　準備ができていると、聴衆によく理解され、質問や反論がそれだけたくさん出てくるから。

ク　準備ができていると、自分の主張の中の未消化な部分がそれだけ明瞭になって、もっと勉強しようという意欲がわいてくるから。

ヤ　準備ができていると、対立した意見が出てきた場合でも、これをよりたやすく論破できるから。

マ　準備ができていると、論争がどれほど激していても、その行く末をより的確に予測できるから。

問6　傍線G「テーゼとアンチテーゼとの闘争」とはどういうことか。三十字以上五十字以内で説明せよ。なお、句読点やカギ括弧などもそれぞれ一字と数える。ただし、「テーゼ」「命題」「アンチテーゼ」「反命題」「闘争」という語は使用しないこと。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　知識モノ解説

文学史・人物解説

● 筆者　末弘厳太郎＝すえひろ　いずたろう（一八八八〜一九五一）山口県生まれ、東京帝国大学法学科卒。法学博士。
● ルドルフ・フォン・イェーリング（一八一八〜一八九二）ドイツの法学者。主著『権利のための闘争』
● ベルンハルト・ヴィントシャイト（一八一七〜一八九二）ドイツの法学者

語句

節操＝せっそう→自分のポリシーや信念を曲げないこと
固持＝こじ→自分の意見をかたく守って変えないこと。同音異義語の「固辞」は、役職に付きませんかなどと誘われても、かたく辞退すること
四囲＝しい→周り、四方八方
直截＝ちょくせつ→ためらわないこと。思い切りがよいこと
大悟＝だいご・たいご→迷いを取り去ること。仏教的には悟りを得ること。「大悟徹底」という四字熟語もあり、完全な悟りを得て、もはや迷いや迷妄がいっさいないこと
弁証法＝べんしょうほう→ディアレクティーク（ドイツ語）。意見の対立や対話を通してより高い意見を出す思考法。対話法。ダイアローグ（対話）による思考の発展方法。したがって、物別れ、ケンカ別れではなく、また単なる歩み寄りとしての妥協（だきょう）でもなく、混ぜ合わせの折衷（せっちゅう）案でもありません。むしろ、もともとの各意見以上の総合的な見解を生み出すこと。言い換えれば、正しいと思って提示した意見（テーゼ）も神様ではない、人間の発想した意見ゆえに、なんらかの欠陥があり、反論＝アンチテーゼを呼びます。その討論からよりよい総合意見（ジンテーゼ）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

を生み出す知的な過程。形式的にテーゼは「正」、アンチテーゼは「反」、ジンテーゼは「合」と記号的に表現されることがあります

テーゼ→提言・意見・主張・措定（そてい）・定立（ていりつ）・命題（めいだい）。「正」

アンチ・テーゼ→反対意見。ある主張（定立・提言）に対し、それを否定する主張。反定立・反命題。「反」

ジン・テーゼ→高められた総合意見・総合命題。「合」

止揚＝しよう→アウフヘーベン（aufheben ドイツ語）より高い次元へ引き上げて統合すること。テーゼとアンチテーゼとの火花を散らすような対立や争点や違いを、なかったこととして解消するのではなく、対立を保ちながら、より高い次元へ引き上げて統合すること。総合命題（ジンテーゼ）へと対立を引き上げること。「auf」は英語の「upward」に相当し、「上の方へ」という方向性を示す言葉。「heben」は英語の「hold」に相当し、「つかむ・保持する」を意味する。したがって「アウフヘーベン」は対立や対話を保持しつつ、高次元へと引き上げるダイナミックな力や思考力を意味する

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第三講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）学者の節ソウを問う　①相　②総　③僧　④奏　⑤操

（イ）自説を無理にコ持する　①呼　②故　③固　④誇　⑤古

（ウ）四イを見て時流を追う　①囲　②意　③位　④居　⑤異

（エ）研究の先ク者となる　①句　②駆　③供　④功　⑤苦

（オ）学界の権イを蔑視する　①医　②偉　③畏　④威　⑤遺

（カ）互いにジン営を交換する　①人　②仁　③陣　④臣　⑤迅

（キ）対話から総合メイ題を導く　①明　②銘　③名　④命　⑤迷

（ク）大学での講ギを準備する　①議　②義　③儀　④犠　⑤戯

（ケ）闘争をコク服していく　①克　②穀　③刻　④告　⑤国

（コ）原コウ用紙に書きためる　①硬　②校　③高　④行　⑤稿

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　文学部　芸術論・建築論

次の文を読んで、あとの問いに答えよ。

日本住宅の平均的なイメージは今日でもいまだに、畳の部屋がいくつかに仕切られ、床の間を持つ座敷からは、南側に配された庭を眺めることができるといったものだ。日本の伝統において、庭こそは［1］だったのであり、建築はむしろその付属物にも似た地位にあった。南側に設けられた庭を中心に建物の部分空間が統合され、その結果、日本の住宅建築を代表するいわゆる書院造（づくり）、数寄屋造といった様式では、庭のまわりに雁行（がんこう）形に家屋が配置されることになる。そこでは必然的に家屋と外部空間が密接につながり合い、庭のデザインと建物の構成は連動していた。空間はあくまで水平方向に連続し、〈縁〉が庭と住宅との曖昧（あいまい）な境界として機能した。

書院造に比べてより非相称性を強めた様式が数寄屋造と呼ばれるが、前者が後者に変化する契機となったのがまさに〈数寄屋〉、つまり草庵茶室であるとされる。そして、草庵茶室の最も純粋な原型は、茶の湯を大成した千利休によって作り上げられたといわれる。だが、利休の茶室は本来むしろ、数寄屋造を含めた日本住宅の伝統にまったく逆らう〈反住居〉であり、〈反日本建築〉であったとさえいえる。伝統的な日本建築が壁ではなく、柱主体の構築であり、空間の分節を襖（ふすま）や障子といった取り外し可能な建具によっておこなう開放的な構成であったのに対し、茶室は土壁に囲い込まれた密室である。草庵茶室は確かに露地と呼ばれる山中の情景を模した庭のうちに建てられるが、しかし、利休の茶室においては、茶室内部からこの庭を眺めることはできない。そして建築における〈日本的なもの〉の古典性は、やがてこの〈近代〉の視座から遡及（そきゅう）的に構成されることになる。窓（それが日本建築の構成要素となるのも利休の草庵茶室以後である）はおもに座敷に明かりを採り入れるためにある。空間は内部と外部に峻別（しゅんべつ）される。客の出入口である躙口（にじりぐち）は横幅と高さが二尺（約六〇センチ）ほどの小さなもので、身をかがめて這（は）い蹲（つくば）らなければ入り込めず、さらにこの内部空間の閉鎖性を強めるように、末客は躙口の戸を閉めて戸に付いた掛け金を降ろす。なるほど時代を下れば、窓を増やし大きくして、外界との連続性が復活する傾向も見せるとはいえ、茶室内部は基本的に〈室〉という語の原意に近い、非常に閉鎖的な空間であり、特段の装飾を欠いた無季的で空虚な〈空（す）き家〉（岡倉天心（おかくらてんしん））だった。A茶

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

座敷と露地との差がない〈ぬるさ〉を嫌って、利休は茶室を南向きに建てたともいわれる（堀口捨己（ほりぐちすてみ）による）。この暗い部屋は住居ではなく、茶室そのものの閉じた構造のみならず、露地内の中潜りや中門など、いくつもの結界によって囲まれた聖所であり、芸能としての茶の湯が演じられる［２］だった。躙口を利休が思いついたきっかけは川辺に浮かぶ船の潜り戸であるとも伝えられるが、一方、演能場や歌舞伎の芝居小屋に入る出入口の鼠木戸（ねずみきど）との類縁が指摘されている。われわれの言葉で言えば、茶室の内部とは〈表象〉の空間にほかならなかった。そうした可能性を保証するのはこの場合、内と外の徹底した分離である。閉ざされているからこそ、床に生けられた花はただ一輪で自然の四季を表す。点前（たてまえ）のふるまいは日常的な身ぶりの美を集約したおこないとして立ち現れる。

茶の湯と茶室が十六世紀末に、貿易都市堺の商人であった千利休によって完成されたことは偶然ではあるまい。このいわゆる桃山時代、ヨーロッパではルネサンスからバロック、あるいは古典主義時代へと文化と知の構造が大きく変貌したこの時代にあっては、世界に関する知は世界それ自体からではなく、その〈表象〉の分析を通じて得られるものとなる。古典主義時代のこうした知の構造のモデルとされるのが、〈暗い部屋（カメラ・オブスキュラ）〉と呼ばれたピンホール（注）・カメラだった。この光学装置は当時、人間の視覚や認識活動を説明するために好んでモデルとして利用された。それは外界から切り離された空虚で独立した空間を作り出し、その暗闇の中に外界の表象を映し出す仕掛けである。世界を知るためには、外界との直接的な遭遇を避けて、この閉ざされた空間内に自己を位置づけることこそが必要とされる。〈われ思う〉の内省から〈われ在り〉の存在を導くデカルトにとって、精神とはこのカメラ・オブスキュラの内部空間にほかならない。そこでは知覚や認識はあくまでこの内的空間における精神の自己観察なのである。

デカルト的主体がカメラ・オブスキュラによって表象されていたとするなら、茶室という〈暗い部屋〉は、日本の貿易の中心地であり鉄砲の最大生産地でもあった自由都市堺の政商千利休の、強烈な〈個〉の意識を明確にした主体のモデルであったといえるのではないだろうか。主客の区別が判然としない寄合の茶とは異なり、利休の茶では明確に分離された主と客（茶室はこの両者の動線が決して交わらないことを原則とする）が四畳半から二畳という極小の空間内で対峙（たいじ）する。身分の上下は原則的にこの空間内では無視される。町衆と呼ばれた商業資本のブルジョワジーにおける［３］をそこに認めることはおそらく誤りではないだろう。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

茶室はいわば個の自覚を得たブルジョワジーの私的な祭祀（さいし）の場所であり、いわゆる〈数奇者〉がその好み＝数奇に合わせて作り上げた空間である。そこでは室内の部分を形成する部材や世界各地から集められたさまざまな物品が、主人の好みに応じて、時には意表をつく形で配置され、B〈見立て〉という記号系の翻訳システムによって意味の統一を与えられる。そして、茶の湯とは一種の〈主体化〉の作法だった。それは桃山時代という激動期に、政治の中枢に直結した商人という身分ゆえに村落共同体的な集団の束縛をいち早く脱した個人が、極小の閉鎖的空間内に客共々にこもって執（と）り行った、［甲］を高め合う儀式だった。

（田中純（たなかじゅん）「利休の〈暗い部屋〉――草庵茶室の空間」より）

（注）ピンホール・カメラ……レンズではなく針の穴を利用した写真機。

問1　本文中には、その内容から言っても、論旨の展開から言っても、余分な文が一つだけ挿入してある。その文の最初の五字と終りの五字を記せ（句読点や記号も一字と数える）。

問2　文中の［1］～［3］に入るもっとも適当な語句を、それぞれ次の中から選びなさい。

1　イ　モダニズム美学の極致　　ロ　文化的表現の舞台
　　ハ　日本建築史における特異点　　ニ　建築空間の再現

2　イ　演劇性に満ちた都市　　ロ　即物的な舞台
　　ハ　機能化された密室　　ニ　非日常的な空間

3　イ　自我意識発生の表れ　　ロ　世界認識の逆転現象
　　ハ　身分制度超越の萌芽（ほうが）　　ニ　想像空間の形成

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問３　傍線部Ａ「茶座敷と露地との差がない〈ぬるさ〉を嫌って」と同じ意味をもつものを、次の中から選びなさい。

イ　昼なお薄暗い室内と外部空間とのコントラストを強めようとして
ロ　日本建築の古典的な性格をそのまま受け継ぎ、それをより深めようとして
ハ　外界との連続性を取り戻し、そこに明確な文化人の主体化の試みを示そうとして
ニ　それぞれの用途や芸の領域内において、茶室が自らの完結した評価体系を持つようにして

問４　傍線部Ｂ「〈見立て〉という記号系の翻訳システム」の説明として、もっとも適当なものを、次の中から選びなさい。

イ　実際のものを一度全てばらばらにし、一人の強烈な個性によって取捨選択して価値づけようとする試み。
ロ　種々雑多なものが、本来の性質を超えて表象のレベルで新たな意味を持ち、つながりを持って行くかたち。
ハ　一人の人間の好みによっていろいろなものに新しい色彩を付与し、全く違った生命を発見して行く方法。
ニ　ものの持つ象徴性に目を向けることを通して、世界を全てシンボルの宇宙と考える思考様式。

問５　文中の［甲］に入るもっとも適当な語句を、本文中の三字から五字の一続きの部分で抜き出して記せ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　田中純＝たなか　じゅん（一九六〇〜）宮城県生まれ、東京大学教養学部卒。思想史が専門

●岡倉天心＝おかくら　てんしん（一八六三〜一九一三）神奈川県生まれ、東京大学文学部卒。東京美術学校（東京芸術大学）の創立に関わる。主著『東洋の理想』『茶の本』

●堀口捨己＝ほりぐち　すてみ（一八九五〜一九八四）岐阜県生まれ、東京帝国大学建築学科卒。建築家。

●千利休＝せん　の　りきゅう（一五二二〜一五九一）草庵の茶の完成者と言われる

●ルネ・デカルト（一五九六〜一六五〇）フランスの哲学者、数学者、傭兵。主著『方法序説』『哲学原理』。近代哲学の祖と言われる

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

語句

雁行＝がんこう→渡り鳥の雁が隊列を組んで飛行する姿から、V字型、コの字型

相称性＝そうしょうせい→左右対称・シンメトリー。これが崩れると非相称性・アシンメトリー

峻別＝しゅんべつ→厳しく区別すること

結界＝けっかい→仏道修行のための区分。聖俗の境界

点前＝たてまえ→茶道で抹茶を立てる作法。てまえとも発音する

見立て＝みたて→和歌や詩で、あるものを他のものになぞらえて表現すること。比喩

表象＝ひょうしょう→表現作品（映画を表象文化というように）の意味と頭の中に描いたイメージ像の意味がある

即物的＝そくぶつてき→情緒や芸術性がないこと。現実の利害を重視すること。主観を入れずに物そのものを描くこと

コントラスト→対照・相違・対比。対象は、対象物の意味で、英語ではオブジェクト。対称は、きれいに幾何学的な左右対称で、英語ではシンメトリー

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第四講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）左右の相ショウ性を強める　①称　②照　③象　④性　⑤床

（イ）時代の変化の契キとなる　①期　②奇　③機　④来　⑤軌

（ウ）部屋のソウ飾を排する　①奏　②装　③創　④荘　⑤招

（エ）無機的で空キョな建物　①据　②去　③虚　④嘘　⑤拠

（オ）日常の美を集ヤクする　①役　②訳　③躍　④厄　⑤約

（カ）直接的な遭グウを避ける　①隅　②偶　③寓　④遇　⑤宮

（キ）自らを内セイしふりかえる　①政　②正　③静　④省　⑤誓

（ク）向かい合って対ジする　①地　②自　③峙　④持　⑤治

（ケ）主客の区別がハン然となる　①範　②判　③版　④頒　⑤伴

（コ）意ヒョウをつく配置をする　①表　②評　③票　④標　⑤漂

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　商学部　近代化社会論

次の文を読んで、後の問いに答えよ。

明治から大正の前半にかけて、日本の知的社会の構造は単純であって、ひと握りのエリートと大多数の大衆に二分されるだけであった。もちろん、知的な階層性は経済的な階級性とは異なり、上下の差は漸層的なものであって、かなりの程度に主観的な要素によって作り出される。経済的な力とは違って、知的な優越性は個人の努力によって達成されやすいし、実際、日本の近代化の過程で知的なエリート、あるいはエリートだと自認する人間の数は着実に増えて来た。しかし、この過程を支配していたのはあくまでも二極対立的な価値観であり、一方にエリート、他方に大衆、いいかえれば「学界」と草の根層を対置する単純な社会の構図であった。

これにたいして、大正後期に始まった知識社会の急激な膨張、いいかえれば、知的な階層性の急速な曖昧（あいまい）化は、A皮肉なことに、知識人のあいだにかえって主観的な階層性の意識を増大した。本来、エリートとは定義上、選ばれた少数者のことであるから、その数が膨張することは［1］。そのさい膨張したエリート階層のなかに新たな区別の意識が芽ばえ、純粋なエリートとそれに準ずる人間を階層化しようとするのは、自然な心理の動きであろう。その結果、昭和初年の日本に現れたのは、エリートとそれに準ずる知的な中間階層、ならびに旧来の大衆層からなる、いわば三層構造を持った知的社会であった。

どんな場合にも、社会の階層的な区別は、区別によって下積みに置かれた側によってまず鋭く意識される。新たな階層化の出現を意識したのは、いうまでもなく［2］であり、それとともに急成長を見せた新聞、出版ジャーナリズムであった。一九一七年、ロシアに起った革命は、そのなかで活躍した反体制的な知識人、いわゆるインテリゲンチャの存在を世界に知らしめた。日本でもこの言葉が輸入され、やがてその短縮型「インテリ」が流行語になるにつれて、これは新しい知的な中間階層がみずからを同定し、呼びならわすための恰好（かっこう）の用語となった。昭和初期の知識社会は、主として学界に生きる専門研究者と、主としてジャーナリズムに拠るインテリのあいだで、しだいに目に見えるかたちで分裂を深めて行った。新興のインテリの複雑な自恃（じじ）の感情と学界人への反抗心は、昭和二年（一九二七年）七月の日付を持つ、「岩波文庫」の発刊の辞にじつにみごとに要約されている。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

真理は万人によって求められることを自ら欲し、芸術は万人によって愛されることを自ら望む。かつては民を愚味ならしめるために学芸が最も狭き堂宇に閉鎖されたことがあった。今や知識と美とを特権階級の独占より奪い返すことはつねに進取的なる民衆の切実なる要求である。岩波文庫はこの要求に応じそれに励まされて生まれた。それは生命ある不朽の書を少数者の書斎と研究室とより解放して街頭にくまなく立たしめ民衆に伍せしめるであろう。

流行の社会主義用語をちりばめながら、ここで筆者が直接の敵としているのは、「少数者の書斎と研究室」である。はたして、知識と美が特権階級に独占されうるものかどうか疑わしいし、それが物質のように奪い返せるかどうかもっと疑わしいが、ともかく、この筆者の眼にある種の知識人が特権階級のように見えていたことは、確実である。

そして、さらに確実なことは、この特権階級が社会的にどういう地位にあるかは問わず、少なくとも主たる知識の源泉として、岩波文庫を必要としない人間だったということであろう。筆者の眼に映っていた階級対立は、したがって岩波文庫を必要とする人間としない人間、いいかえれば、岩波文庫を読む人間とそれを作る人間の対立であった。主たる知識の源泉を翻訳と校注と解説に求める人間と、逆にその翻訳や解説を自分の知識からあたえる人間の対立であった。もちろん最大の[B]皮肉は、この「発刊の辞」の筆者が表向きは知的な「民衆」の側に身を置きながら、じつは明らかに、岩波文庫を作ってそれを啓蒙する側に属していたという事実であろう。学界人とインテリの相違は、必ずしも客観的な能力や知識の量の違いではなく、知識人とは何かという自己認識の違い、ならびに知識を操作する態度の違いにもとづくものであった。

実際、筆者の反抗心は半ば近く正当だったのであって、この時代、意識のうえで、「少数者の書斎と研究室」を守るエリートがいたことは、事実であった。大学や高校に拠る学界人の大部分、少数の高踏な文学者や芸術家のなかには、[C]明治一代目の知識人の伝統に踏みとどまろうとする傾向が見られた。

彼らの心の拠りどころは、西洋の近代文化と東西の古典的教養であり、その誇りの根拠は、それらの文化に原典を通じて触れていることであった。彼らは一、二の外国語か、漢文、あるいは日本の古文に通暁し、多くの場合、当時はまだ珍しかった外国留学の機会を持っていた。彼ら自身は他人の翻訳に頼ることを軽蔑した。のみならず、大学の内部には一般にジャーナリズムにたいする軽侮の念が高まり、研究者相互のあいだでも、新聞や商業雑誌に執筆する同僚に微妙な反感が向けられるようになった。彼らの信じるものは時流を越えた真理であり、行動の規範は学問研究の求めるディシプリン（規律）であって、当然、その生活

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

態度は孤高の尊重に傾いた。彼らの大部分は政治に無関心であるか、あるいは現実政治を軽蔑するという意味で、きわめて観念的な反体制主義に与（くみ）していた。

しかし、D皮肉なことに、彼らはまさにこの点において、彼らの憧（あこが）れる明治一代目のエリートたちと違っていた。陸軍軍医総監の森鷗外、慶応大学塾頭の福沢諭吉、早稲田大学総長の大隈重信、東京美術学校長の岡倉天心など、一代目の知識人は現実の政治に触れることをはばからなかった。また、夏目漱石や内村鑑三や吉野作造のように、むしろジャーナリズムを重要な地盤としたエリートも多かった。そして、そのことと関連して、明治の先覚は多少とも専門を越えた総合的知識をめざしたが、昭和の学界人は、その信条において完全な専門家であった。近代化が学問を複雑化し、個人が総合的知識を持つことが難しくなったのも事実であるが、知識人がその状況を進んで利用したことも疑いない。大学という制度のなかの学者たちは、他人の専門に口を出すことを慇懃（いんぎん）に拒絶し、自分の専門に口を出す「素人」を露骨に軽蔑した。そうすることが、専門を基盤とする大学制度を守る道でもあったし、百科全書的な先輩と同時代の素人知識人にたいして、自己の立場を鮮明にする道でもあったからである。

（山崎正和（やまざきまさかず）『日本文化と個人主義』による）

問１　空欄 [１] をうめるのに最も適当なものを、次のイ～ホから選べ。

イ　エリートの主観的価値が客観化される
ロ　エリートの存在根拠そのものを危くする
ハ　エリートの階層性を無意味なものとする
ニ　エリートの大衆への影響力が強化される
ホ　エリートの存在価値をより確かなものにする

問２　空欄 [２] をうめるのに最も適当な語句を、文中から抜き出して記せ。ただし、十字以内ひと続きのものである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問３　傍線部Ｃでいう「伝統」とは何か。筆者の見解に即して、次のイ～へから二つ選べ。

イ　孤高の尊重　　ロ　政治への無関心　　ハ　東西の古典的教養

ニ　外国留学の経験　　ホ　観念的な反体制主義　　へ　ジャーナリズムへの軽蔑

問４　傍線部Ａ・Ｂ・Ｄは、それぞれ何が「皮肉」なのか。最も適当なものを、次のイ～トから選べ。

イ　保守を装った革新　　ロ　進歩と相反する退行　　ハ　目標とくい違う到達

ニ　見かけと矛盾する実質　　ホ　連帯が生み出した孤立　　へ　近代性に同居する前近代性

ト　状況とはうらはらな内面の動き

問５　本文の内容と一致しないものを、次のイ～へから二つ選べ。

イ　ジャーナリズムの発達は、エリートとインテリとの階層的分化を促進した。

ロ　昭和初期のエリートの排他的態度は、自己の優越性を確保する手段であった。

ハ　日本の「インテリ」は、その発生から見ると、反体制的な態度を本質とする。

ニ　昭和期においても、すぐれた専門家は同時に啓蒙家であることを求められた。

ホ　昭和の学界人は、明治のエリートの広い知識や行動力と結果的には無縁であった。

へ　インテリは、少数者による知識の独占に反対するのが知識人であると認識していた。

© RECRUIT HOLDINGS

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　山崎正和＝やまざき　まさかず（一九三四～）京都府生まれ、京都大学文学部哲学科美学美術史専攻卒。同大学院やイェール大学演劇学科で学ぶ。関西大学教授や大阪大学教授などを歴任。日本を代表する文芸批評家

●森　鷗外＝もり　おうがい（一八六二～一九二二）本名は、森林太郎（もり　りんたろう）。島根県生まれ、東京大学医学部卒。作家でありつつ、陸軍軍医総監まで上りつめた。代表作『舞姫』『青年』『雁』『高瀬舟』

●夏目漱石＝なつめ　そうせき（一八六七～一九一六）本名は、夏目金之助（なつめ　きんのすけ）。東京生まれ、東京大学英文科卒。東大英文科講師を経て、朝日新聞に入社。専属小説家となる

●福沢諭吉＝ふくざわ　ゆきち（一八三五～一九〇一）慶應義塾の創設者。主著『学問のすすめ』『文明論之概略』

●大隈重信＝おおくま　しげのぶ（一八三八～一九二二）早稲田大学の創設者

●岩波茂雄＝いわなみ　しげお（一八八一～一九四六）長野県生まれ、東京帝国大学哲学科で学ぶ。岩波書店の創業者。社名の看板は、夏目漱石が書いたものとして有名

●内村鑑三＝うちむら　かんぞう（一八六一～一九三〇）札幌農学校（北海道大学）卒。無教会派のキリスト教徒。欧米向けの日本紹介の著作として『代表的日本人』がある

●吉野作造＝よしの　さくぞう（一八七八～一九三三）宮城県生まれ、東京大学政治学科卒。「民本主義」の思想家

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

語句

漸層的＝ぜんそうてき→きっちりと二極化するのではなくグラデーションのように淡い違いの階層になっている様子
自認＝じにん→自己認識・自分で認めること
自恃＝じじ→自分自身を頼みとするということ・プライド
愚昧＝ぐまい→おろかで物事の道理がわからないこと
堂宇＝どうう→建物・殿堂
進取＝しんしゅ→古い習慣にとらわれず、進んで新しいことに取り組もうとすること
伍する＝ごする→同等の位置に並ぶこと・肩を並べること
不朽＝ふきゅう→いつまでも価値を失わないこと
校注・校註＝こうちゅう→語句解説のこと
高踏的＝こうとうてき→俗世間を超越し、自らを気高く保つこと
通暁＝つうぎょう→ある物事に詳しいこと。すみずみまで知り尽くしていること。夜通しという意味もある
軽侮＝けいぶ→軽くみて馬鹿にすること
孤高＝ここう→一人だけまわりよりも気高く、高い理想や志を保つこと
観念的＝かんねんてき→具体性や現実性ではなく抽象的な思考をもつ様子
慇懃＝いんぎん→丁寧で礼儀正しいこと。慇懃無礼というと、一面で礼儀正しいようで、その実、横柄で相手を尊重していない様子を指す

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第五講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）社会の階ソウ分化が進む　①相　②層　③装　④騒　⑤草

（イ）社会のコウ図を描き出す　①航　②講　③侯　④構　⑤項

（ウ）知識社会がボウ張する　①傍　②膨　③暴　④謀　⑤冒

（エ）進シュ的な民衆の要求　①主　②種　③守　④取　⑤手

（オ）書物が知識の源センとなる　①泉　②線　③潜　④選　⑤遷

（カ）民衆をケイ蒙する活動　①径　②慶　③契　④敬　⑤啓

（キ）商業雑誌にシッ筆する　①質　②室　③漆　④湿　⑤執

（ク）コ高を尊重する態度　①個　②小　③古　④孤　⑤己

（ケ）学界人の信ジョウを守る　①上　②状　③条　④情　⑤丈

（コ）カン念的な反体制主義　①感　②観　③勘　④肝　⑤寛

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　政治経済学部　芸術論（近代文語文）

次の文を読んで、あとの問いに答えよ。

一体、彫刻というものは一般には解りにくいものである。絵画や音楽ほどの表面の魔力に欠けている様に見られている。人の官能を刺激する要素が至極簡単であって、絵画が七彩の変化により、音楽が七音の紛糾によって神経に快い燃焼を起こさせるのに反して、彫刻はただ［A］があるばかりである。従って単調の感がある。これは仕方がないのである。ほかの事を考えながらでも、絵画や音楽にはある刺激をうける。しかるに、彫刻を味わおうとするには真に心を傾けてかからねばならぬ。予め感応するつもりで催眠術の椅子に腰をかける人の心を持たねばならぬ。信じ切ってかからねばならぬ。でなければ、如何なる名作の前に立ってもすべて石塊や金糞の堆積にほかならぬものとなってしまう。如何なる名作にも驚かぬのは、［B］に驚かぬ猫の様なものである。あまり面白い事ではない。人間が活きている以上は寸毫でも多く人生の興味をあらゆる方面から味わい、出来るだけ豊富な有り余った内面生活を営みたいと思うのは、遠く埃及時代からの人間の欲望である。従ってこの猫の様にはなりたくない。世間には、彫刻の面白味を解せず、といってむしろ彫刻に対する侮蔑の意を漏らす人がよくあるものであるが、物を味わう力の足りないこれらの人の内面生活の涸寒さを思うと情けなくなるものである。骨の硬くなった日本の中老人にこの種の人が多いが、年の若い今日の人等をしてゆめその跡を踏ましめたくないと思っている。

彫刻というものは実に不思議なものである。人間の理解力を最も大胆に愚弄するものである。絵画が平面に立体を出さしめ、無中に有を生ぜしめるのは、一の錯覚を利器とするにほかならぬ。音楽が刹那刹那の夢の連続で人を酔わしめるのは、人の情緒の波動に力負けをさせる。欺瞞の技巧が余り巧緻に過ぎて不思議の感を起こさしめるに至らない。ひとり彫刻に至っては、「［C］」という不思議な日本語で形容するよりほか形容のしかたに困るほどのものである。彫刻は何の欺瞞をも許らない。立体的のものを立体的に作っている。また錯覚をも絵画ほど有機的には利用しない。せめて眼球の光りを作るに却って反対にこれを刳りぬくという様な初歩な手品をする人がある位のものである。それ程無器用で人間の狡猾性を離れたものでありながら、最も思い切りよく自然の色彩の感覚を無視している。忘れたのではないかと思わせるほど平気でこの不思議な仕事を敢えてしてい

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

る。この有機的な自然の中から、かくも無神経に、何の賠償もなしに、「線」の調律ばかりを抽(ひ)き出して来る人間の能力はほかに一寸(ちょっと)類がない。

そこで、彫刻は最も原始的のもので、やがて絶滅すべきものだ、などと地球の運転を心配する様な人が判断する事もある。しかるに、彫刻の面白味というものは、この原始的で、大道手品の様に無器用で、あからさまな、大胆な、少し智慧の足らない様な、図々しい所に生命があるのである。この点を認めて彫刻に向かわなければ彫刻の立つ瀬はなくなってしまう。否、見る人の立つ瀬がなくなってしまうのである。彫刻に向かって絵画や音楽に求める様な表面の複雑な情調や官能の生理的跳躍の快さを求めるのは無理である。彫刻はもっと灰汁(あく)が抜けているのである。原始的であると同時に、というよりはむしろ原始的であるから、最も進んだ現代人の心の奥の叫び声と共鳴する唯一の芸術である。現代人の心は中世期を踏台にして遠くハイエログリフ文字の活用されていた時代と相呼応している。最も文明の進んだ、最も物の解った仏蘭西(フランス)の芸術の中に、ロダンの彫刻あって現代人を魔酔し去っているのは、彫刻のこの性質を最もよく説明しているのである。一見不自由の様に見えた彫刻の訥弁(とつべん)も、現代の核に突き入ると案外な雄弁に化するのである。冷淡に構えている人にとっては彫刻はあくまで冷やかである。一旦自分を打ち込んだらこれ程心を蕩(とろ)かすものはない。D彫刻というものと朋友の交を持続する事の出来たのは昔の人の事だ。「あかの他人か、情人か。」彫刻の権威と魔力とはこう直截(ちょくせつ)に叫ぶのである。

比較という冷やかな尺度や、錯覚というおめでたい眼鏡を手にして彫刻に向かう位なら、彫刻は見ぬ方がいい。石の人間や銅(あかがね)の人間は余り自然と遠ざかり過ぎている。眼に見た自然を彫刻に見ようとするのは諦めねばならぬ。仏蘭西の文学家ユイスマンスが蠟人形を彫刻に輸入しようとした考えの甚だしく偏しているのはその後の彫刻界の事実が立派に証明している所である。彫刻家が裸体を好んで作るのも此所(ここ)に根があるのである。色彩と触感との最も複雑した今日の人間の服装などを彫刻で再現しようなどとするのは、無駄な努力を費やす事になるからである。その上、人間の裸体の不思議なあからさまの感じが、その色彩を失って、彫刻の原始的な面白味とぴたりと合うからである。自然と遠ざかり過ぎている石の人間や銅(あかがね)の人間や木の人間を見ての興味は、自然の再現についての興味でなくして、自然の魂を幻に見る興味である。自然の気息(いき)を直ちに耳に聞く興味である。自然の脈拍を遽然(きょぜん)として指に触るる興味である。この時、形の再現という意味は少しも伴っておらぬ。「具体的な抽象美」というと、ほとんど意を成さぬ考えの様だが、彫刻は実にこの不思議な理屈を雑作もなく実現させるのである。よく幽霊に抱か

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

れたという人がある。形も見えぬ、色も見えぬ、煙の様なものが来て体を包むと思うと、突然胸に烈しい鼓動を覚えるという話である。彫刻の人に与える感じは恰度（ちょうど）この突然胸に烈しい鼓動を覚える感じである。その形は一種の記号的な原始の姿でいながら、人に加える刺激は不思議な衝心の威力をもっている。物の魂を抽（ぬ）き取って来て、前後の考えなしに、何の装飾もなしに、人の眼前に放擲（ほうてき）した様なものである。だから、自然の形の再現でないという事をよく承知して置かねばならない。爪の形状を問い、腕の太さを尋ねるのは末の末の話である。

（注）「ハイエログリフ」……ヒエログリフ（古代エジプトの象形文字）。
「遽然」……あわただしいこと。ここでは、なまなましく、の意味を含む。

問1　空欄［A］に入る最も適当なものを、次のイ～ニの中から選べ。
イ　空間を劃（かぎ）る輪廓の線の波動　　ロ　時間を截断（せつだん）した刹那の物の表情
ハ　自然を欺（あざむ）く巧緻な形の技巧　　ニ　立体を彫琢（ちょうたく）する単調な面の連続

問2　空欄［B］には、慣用的な言い回しを踏まえた漢字二字の語が入る。**楷書**で正確に書け。

問3　空欄［C］には、問題文中にある四字の形容詞が入る。正確に書け。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問４　傍線部Ｄはなぜそのようにいえるのか、その理由として最も適当なものを、次のイ～ニの中から選べ。
イ　昔の人にとって彫刻は信仰の対象であり、朋友に対するような親しみと敬意をもって接するのが常だったから。
ロ　昔の人のほうが彫刻に全身全霊で打ち込み、朋友と対話するように、その語りかける声に耳を傾けることができたから。
ハ　現代人は、孤独のなかで彫刻と厳しく向き合うので、どんな朋友もその間に介在することができないから。
ニ　現代人に対して彫刻は、通り一遍の関与を許さないので、朋友に対するような穏やかさで対座することができないから。

問５　問題文における筆者の見解と合致するものを、次のイ～ホの中から一つ選べ。
イ　彫刻は、絵画や音楽のような官能を刺激する魔力に欠け、表面的には単調であることをまぬがれないが、見ることのできない内部においては、きわめて繊密で複雑に構成されている。
ロ　彫刻にはフランスのロダンをはじめとして、古来名作として知られている作品も少なくないが、それらも結局は石塊や金糞の堆積にすぎないという冷静な視線も、一方では必要である。
ハ　彫刻から、現代人が激しい胸の鼓動を覚えるのは、文明の進んだ現代人であればあるほど、心の奥に潜んでいる叫び声が、彫刻のもっている原始的な性格と呼応し、共鳴するからである。
ニ　彫刻が人間の裸体像を好んで制作するのは、石や銅や木などの素材が色彩的で複雑な服装の再現に適さず、むしろ何の装飾もない人間の肉体をありのままに描くことを得意とするからである。
ホ　彫刻がめざすのは、自然の形を再現することではなくその魂を表現することであるから、表現をつきつめていけばいくほど、実際の形を離れて一種の記号的な原始の姿をとるようになる。

問６　問題文の筆者は、近代の彫刻家・詩人で、詩集には『道程』『智恵子抄』などの作品がある。その姓名を漢字で答えよ。
解答は、**楷書**で正確に書け。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　高村光太郎＝たかむら　こうたろう（一八八三～一九五六）東京生まれ、東京美術学校（東京芸術大学）彫刻科卒。父親は、高村光雲（こううん）で、東京美術学校彫刻科教授

●オーギュスト・ロダン（一八四〇～一九一七）フランスの彫刻家。『地獄の門』および『考える人』の彫刻はあまりに有名

●ユイスマンス（一八四八～一九〇七）フランスの世紀末的作家の代表。主著『さかしま』

語句

官能＝かんのう→性的、エロチックなものを意味することもあるが、本文では広く感覚器官のはたらきのこと

紛糾＝ふんきゅう→もつれ、からまること

寸毫＝すんごう→極めてわずかなこと。一寸とほぼ同義

涸寒＝こかん→内容が貧弱であること。涸は、干からびるという意味

愚弄＝ぐろう→人を馬鹿にしてからかうこと

刹那＝せつな→きわめて短い時間。瞬間のこと

欺瞞＝ぎまん→人をあざむき、だますこと

巧緻＝こうち→巧みで細部までよく行き届いていること

狡猾＝こうかつ→ずるがしこいこと

訥弁＝とつべん→雄弁の対義語で、話し方がなめらかでないこと

放擲＝ほうてき→打ち捨てること。何もしないでほうっておくこと

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第六講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

(ア) 人のカン能を刺激する　①感　②観　③官　④歓　⑤幹

(イ) サイ眠術の椅子に座る　①再　②祭　③宰　④栽　⑤催

(ウ) 彫刻に対するブ蔑の念　①武　②部　③侮　④撫　⑤悔

(エ) 技巧が巧チに過ぎる　①知　②智　③値　④置　⑤緻

(オ) バイ償金を支払う　①賠　②陪　③倍　④培　⑤楳

(カ) 無シン経な振る舞い　①神　②心　③信　④真　⑤深

(キ) 冷タンな様子を見せる　①短　②嘆　③淡　④担　⑤単

(ク) 血圧と脈ハクを測定する　①伯　②博　③迫　④拍　⑤泊

(ケ) 学説をユウ弁に語る　①雄　②勇　③悠　④優　⑤宥

(コ) 大胆で不キ用な手つき　①器　②気　③揮　④鬼　⑤危

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

政治経済学部　文学史（近代以降）　過去問題総復習

この総復習を通じて、政経学部で出題される文学史問題の水準がどんなものか学べます。はっきり言いまして、難しくありません。〝常識〟は言い過ぎですが、標準的な教養レベルです。高校などで配布される**『国語便覧』**に太字や赤文字で記されているような**最重要事項**ばかりと言えます（正解ばかりでなく選択肢として出てくるものも）。一方、こうした文学史分野の知識があやしい受験生は、解説解答を通じて、知識を拡張、補強してください。選択肢で登場しているものも知識の内にしてくださいね。なお、過去問の水準に合わせて、**予想問題**もつけました。これらは、是非ともマスターした上で試験に臨んでもらいたいものばかりです。

その１　谷崎潤一郎（たにざきじゅんいちろう）の作品を選べ。

イ　刺青（しせい）　ロ　草枕（くさまくら）　ハ　或る女（あるおんな）　ニ　夜明け前（よあけまえ）　ホ　暗夜行路（あんやこうろ）

その２　徳富蘆花（とくとみろか）の作品を選べ。

イ　細雪（ささめゆき）　ロ　檸檬（れもん）　ハ　不如帰（ほととぎす）　ニ　虞美人草（ぐびじんそう）　ホ　金色夜叉（こんじきやしゃ）

その３　与謝野鉄幹（よさのてっかん）・晶子（あきこ）の新詩社が刊行していた雑誌を選べ。

イ　ホトトギス　ロ　心の花　ハ　明星（みょうじょう）　ニ　新思潮（しんしちょう）　ホ　文学界

その４　夏目漱石（なつめそうせき）の晩年、大正期に入ってから書かれた小説を二つ選べ。

イ　三四郎（さんしろう）　ロ　坊（ぼっ）ちゃん　ハ　道草（みちくさ）　ニ　明暗（めいあん）　ホ　吾輩（わがはい）は猫（ねこ）である

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

その5　武者小路実篤が活動した文学グループは何か。

イ　自然派　ロ　白樺派　ハ　明星派　ニ　新感覚派　ホ　新理知派

その6　夏目漱石の「修善寺の大患」以後の作品は何か。

イ　虞美人草　ロ　三四郎　ハ　坊ちゃん　ニ　明暗　ホ　吾輩は猫である

その7　永井荷風の作品を選べ。

イ　暗夜行路　ロ　細雪　ハ　濹東綺譚　ニ　夜明け前　ホ　李陵

その8　日本の自然主義文学運動を代表する作家は誰か。

イ　尾崎紅葉　ロ　志賀直哉　ハ　田山花袋　ニ　永井荷風　ホ　横光利一

その9　柳宗悦は、武者小路実篤・志賀直哉らと同人誌を創刊し、人道主義的な立場から芸術運動に携わった。その雑誌名を選べ。（もともとは選択肢なし）

イ　新思潮　ロ　白樺　ハ　歴程　ニ　四季　ホ　明星

その10　俳句・短歌の革新者として知られる明治の文学者は誰か。（もともとは選択肢なし）

イ　夏目漱石　ロ　二葉亭四迷　ハ　坪内逍遥　ニ　正岡子規

また、その筆者の作品を選べ。

イ　赤光　ロ　墨汁一滴　ハ　みだれ髪　ニ　海潮音　ホ　若菜集

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

その11　森鷗外の作品を三つ選び、成立の早い順に並べよ。

イ　浮雲　ロ　雁　ハ　三四郎　ニ　渋江抽斎　ホ　舞姫

その12　「山路を登りながら、こう考えた。智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい」ではじまる、夏目漱石初期の作品名を選べ。（もともとは選択肢なし）

イ　草枕　ロ　明暗　ハ　三四郎　ニ　それから　ホ　門

その13　松尾芭蕉の臨終場面を描いた小説『枯野抄』を書いた大正期の作家は誰か。（もともとは選択肢なし）

イ　芥川龍之介　ロ　田山花袋　ハ　川端康成　ニ　大江健三郎

その14　哲学者、和辻哲郎の著作を次の中から二つ選べ。

イ　東洋の理想　ロ　日本への回帰　ハ　風土　ニ　出家とその弟子

ホ　陰翳礼讃　ヘ　鎖国　ト　「いき」の構造

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

政治経済学部　文学史（近代以降）予想問題

これらの予想問題演習を通じて、文学史の基礎教養を身につけて、合格に向け前進しよう。なお、過去問の復習や記憶の確認にもなるように工夫してあります。存分に活用してください。

その１　『あこがれ』『一握の砂』『悲しき玩具』などの詩集や歌集を残した近代の歌人は誰か。

イ　夏目漱石　ロ　森鷗外　ハ　石川啄木　ニ　武者小路実篤

その２　夏目漱石の門下生で、『羅生門』『鼻』『芋粥』など日本の古典を下じきにした作品を書いた小説家は誰か。

イ　斎藤茂吉　ロ　樋口一葉　ハ　柳田国男　ニ　芥川龍之介

その３　近代の文学理論書で言文一致を説いたものはどれか。

イ　『歌よみに与ふる書』　ロ　『小説神髄』　ハ　『小説の方法』　ニ　『「いき」の構造』

その４　日本人初のノーベル文学賞受賞者は誰か。

イ　川端康成　ロ　湯川秀樹　ハ　大江健三郎　ニ　村上春樹

その５「東海の小島の磯の白砂に／われ泣きぬれて／蟹とたはむる」などの短歌を収録した石川啄木の歌集はどれか。

イ　『智恵子抄』　ロ　『道程』　ハ　『春と修羅』　ニ　『一握の砂』

その６「のど赤き玄鳥ふたつ屋梁にゐて足乳根の母は死にたまふなり」などの短歌を収録した斎藤茂吉の歌集はどれか。

イ　『赤光』　ロ　『みだれ髪』　ハ　『別離』　ニ　『鍼の如く』

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

その7　「鶏頭の十四五本もありぬべし」などの写生句で知られる正岡子規が創刊に関わった雑誌はどれか。

イ『文学界』　ロ『新思潮』　ハ『ホトトギス』　ニ『歴程』

その8　明治時代、夏目漱石の初期の作品で、「親譲りの無鉄砲で小供の時から損ばかりしている」ではじまる小説はどれか。

イ『細雪』　ロ『それから』　ハ『こころ』　ニ『坊ちゃん』

その9　明治時代、森鷗外の作品で、ドイツ留学の経験をふまえた小説はどれか。

イ『渋江抽斎』　ロ『高瀬舟』　ハ『舞姫』　ニ『風土』

その10　大正時代、白樺派の志賀直哉によって書かれた自伝的な小説はどれか。

イ『城の崎にて』　ロ『蒲団』　ハ『蟹工船』　ニ『李陵』

その11　昭和初期、四季派に属する中原中也によって発表された詩集はどれか（二つ）。

イ『山羊の歌』　ロ『在りし日の歌』　ハ『一握の砂』　ニ『若菜集』

その12　日本人としては二人目のノーベル文学賞受賞者である大江健三郎の小説はどれか。

イ『沈黙』　ロ『飼育』　ハ『伊豆の踊子』　ニ『雪国』

その13　明治時代、雑誌「ホトトギス」に掲載された夏目漱石のデビュー作はどれか。

イ『吾輩は猫である』　ロ『三四郎』　ハ『明暗』　ニ『枯野抄』

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

その14　大正時代、『今昔物語集』などの古典をもとにして、人間心理を表現した芥川龍之介の作品はどれか。

イ　『檸檬』　ロ　『山椒魚』　ハ　『鼻』　ニ　『風立ちぬ』

その15　川端康成の代表作で、「道がつづら折りになって、いよいよ天城峠に近づいたと思う頃」ではじまる作品はどれか。

イ　『雪国』　ロ　『陰翳礼讃』　ハ　『伊豆の踊子』　ニ　『或る女』

その16　東北地方の農学校に勤めつつ多くの詩を残した宮沢賢治の童話はどれか。

イ　『銀河鉄道の夜』　ロ　『暗夜行路』　ハ　『田舎教師』　ニ　『蒲団』

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

テキスト解答・解説

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

誤りの選択肢の典型例一覧　〈誤りに名前をつけられるほどのパターンがある！〉

1 **対比混乱の誤り**……本文中で**対比・区別**されていることばを同種のものとして扱ってしまっている誤り。あるいは、主役キーワードの説明を求めている設問で、敵役キーワードを挙げている誤り。**キーワードのグループ分け**失敗の選択肢といってもいい。

2 **同一性分断の誤り**……本文中で同種のことばを対比であるかのように扱ってしまっている誤り。これも**キーワードのグループ分け**失敗。**同質性分断**ともいう。

3 **正しい対比喪失の誤り**……本文中で「**A↔B**」という対比で記述されているのに、無関係な「C」という要素を勝手にもちこんだり、「**C↔D**」といった本文にない対比をもちこんでいる誤り。例えば、本文は「**善↔悪**」という対比で書いているのに、「美」や「醜」という無関係な対比をもちこみ、本文の正しい対比を見失っている誤り。

4 **不当な全称判断**……本文中の記述がないのに、「**すべての○○は**」「**あらゆる○○は**」と勝手に拡張している誤り。類似した誤りとして**不当な一般化**があります。例えば本文では「バラ」という個別のものに焦点を当てているのに、「花というものは」などと拡張している誤り。

5 **不当な限定判断**……本文中の記述がないのに、「**○○のみ**」「**○○だけ**」と勝手に縮小してしまっている誤り。類似した誤りとして**不当な矮小化**（わいしょう）があります。例えば本文では「人間関係全般について」書いてあるのに、「近所づきあい」の次元を書いている選択肢。話を不当にちっぽけにしているわけです。

6 **不当な価値判断**（不当な当為（とうい）判断）……本文では「○○である」「○○だ」という事実判断をしているのに、「**○○であるべきだ**」「**○○にしなければならない**」「**○○する必要がある**」と勝手に改変してしまった誤り。またAとBの特徴の比較をしているだけなのに、**Aの方が優れているといった優劣を持ち込んだ**選択肢の誤り。特に論文を読んだり書いたりする上で、「事実判断と価値判断（当為判断）」との違いには気を使う必要があるんだよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

7 **部分的指摘の誤り**……本文中では、「**AとともにB**」「**Aと同時にB**」「**AしかもB**」と追加表現がなされているのに、「A」だけ、あるいは「B」だけを扱ってしまっている誤り。本文の記述にまったく反しているわけではないため、「高度な」誤りといえます。こういうものに気づけるようになることが、現代文での高得点のカギだよ。

8 **記述に反する誤り**……文字通り、本文中の記述に真っ向から反する選択肢。例えば本文では「AはBである」としているのに「AはBではない」としている誤り。

9 **記述なし**……文字通り、本文中の記述にはいっさい書いてない内容を勝手にのせている選択肢。ただし、「本文の記述に反しているものを選びなさい」といった間違い探しの設問のとき、本文には書いてないだけで、間違いとはいえないということがあるから注意。つまり、「誤り」としては1〜8・10〜12のほうが深刻な誤りといえ、そちらを優先する。

10 **文脈喪失の誤り**……文章中で特定の意味づけをして使っていることばを、**文脈外の「常識」や辞書的な意味**で扱ってしまっている誤り。例えば、「飛躍」ということばを、本文は「行き過ぎ」「誤解」という意味付けをして記述しているのに、勝手に「発展」「前進」というようにとらえてしまっているもの。

11 **物理的スリカエの誤り**……**心理や気持ちを問うている設問で、物理的に説明している選択肢**。小説問題の選択肢としてよく出ます。例えば「暗い気持」を天候や日照量の説明にしてしまっている誤り。

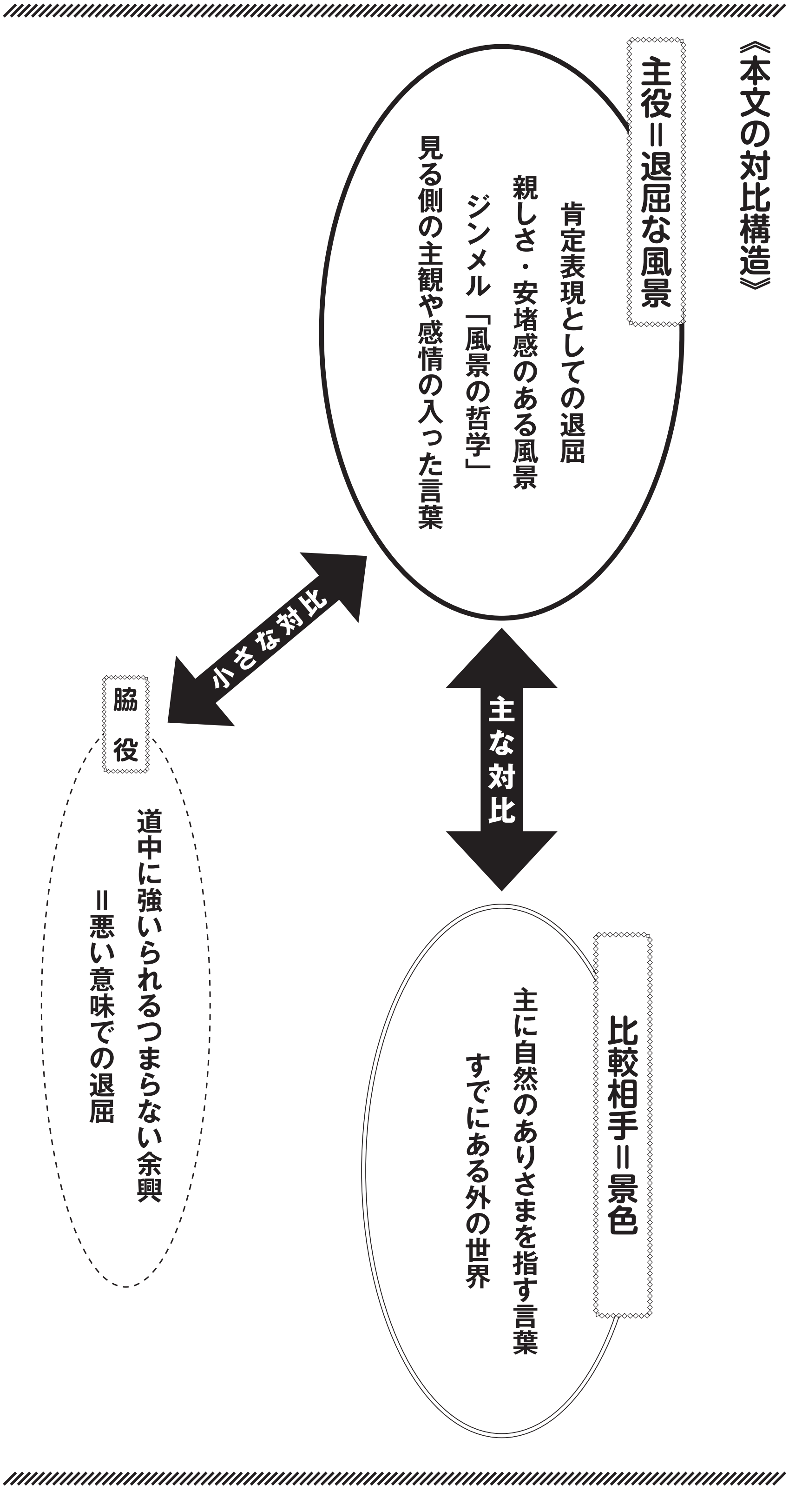
12 **比喩を文字通りに解釈した誤り**……本文中で、たとえになっている表現（擬人法もふくむ）を文字通りにとってしまった選択肢の誤り。比喩は立派な表現技法です。これをリアルに解釈するとずいぶんおかしなことになります。例えば「いやー、歩きつかれちゃって、膝（ひざ）がわらってるよ」なんて表現があるけど、ホントに笑ったら怖い！

13 **具体例は、一段、落ちる**……具体例を挙げている選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない。もっとまとまった語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

14 **比喩による説明は、一段、落ちる**……たとえで説明している選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない。もっと明示的な語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　文化構想学部　文芸論



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《空欄補充・選択肢》

空欄にかかる「共通した」とあるのは、何と何の「共通」でしょうか。それは、修学旅行で訪れている山口県萩（はぎ）近郊の風景と子ども時代の郷里の風景、この共通性です。もっと具体的に言えば、「煉瓦工場」があるような共通性です。「親しさ」のある、なじみの風景を筆者は良い意味で「退屈」と表現しています。本文の言葉では、中原中也の「思ひ出」の詩の前段落に、「どこかべつの場所で嗅いでいた気分にひどく似ていると感じた」とあり、さらに「その気分にいちばん近い肯定的な言葉が、私にとってはどうやら『退屈』に当たるようなのだ」とあります。加えて詩の後段落にも「焼きしめた粘土のにおいが漂っている」とあります。こういうわけで、イの「におい」が正解です。においに記憶が呼び覚まされるということは、一般的にもよくありますよね。初秋などにキンモクセイの香りから、ふっと子ども時代の出来事が想起されたり……。あっ、トイレの芳香剤じゃないからね。

問２《傍線部説明・選択肢》

「修学旅行の神が与えてくれた偶然の差配」とは、第一段落第一行目の「それは郷里の風景に似ていた」と関連します。「それ」とは「バスの窓の外にひろがる萩近郊の風景」のことです。つまり、修学旅行中に出会った風景が「子どものころ」の「記憶のなかの～地形」と似ていることに対して「神」に「感謝」しているのです。

したがって、ホが正解です。「修学旅行で訪れたのがたまたま郷里と同じく～酷似」がいいですね。イは「二十数年ぶりに訪れる機会」が×です。それはすっかり大人になって「中原中也賞授賞式」に行くときの話です。時間の流れで番号をふれば次のようになります。すなわち、〝Ⅰ子ども時代の郷里で見ていた風景〟〝Ⅱ修学旅行で見た山口県萩近郊の風景〟〝Ⅲ大人になってからの山口県に二十数年ぶりの再訪〟です。ⅠとⅡの出会いを「偶然の差配」と呼んでいるのでした。するとイはⅡとⅢのコンビネーションゆえに間違いなのです。するとロも「子どものころ～二十数年後～機会」とありますから、ⅠとⅢのコンビネーションとなってしまい、×。ハはたくさん間違えています。まず時間の区分でいうと「修学旅行の～気分」「詩人のエッセイ～偶然発見」とありますから、ⅡとⅢのコンビネーションで×。さらに修学旅行の際の「退屈」についても間違えていま

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

すよ。筆者は、「退屈」を肯定表現と否定表現に使い分けています。《本文の対比構造》を見てください。動画講義の中でもこれを色分けしているでしょ。「親しさ」「安堵感」に結びつく風景を表現する肯定的な言葉として「退屈」があります。それは、旅行中に「強いられるつまらない余興」の退屈さとは「べつの位相(次元)で、『退屈』」なのです。これははっきり対比です。それなのにハは、「余興の退屈さと同質」としてしまいました。はいそうです、対比混乱の誤りです。ニも同種の間違いです。「バスでの～退屈しきった～吹きはらってくれた」とあり、「退屈」をあきらかに否定的にとらえています。したがって、対比混乱の誤りと言えます。

ところで、「修学旅行の神」なんているんですかね。まあ、トイレにも神様がいるらしいので、八百万（やおよろず）の神様の中には、修学旅行担当がいてもおかしくないかもね。みなさんも受験勉強に煮詰まったとき、トイレ掃除すると気分転換になり、爽快な気持ちでまた勉強に向かえたりするよ。

問3《脱文挿入・選択肢》

この脱文挿入は、早稲田大学の多くの学部でよく出題される形式です。言い換え表現が「脱文」になるのが基本パターンです。今回は「だから日常目にしている景色を退屈だと感じた瞬間、景色は景色であると同時に、風景になる。」が脱文で、〝景色→風景〟という転換や変化を表現しているところを見つけて、その後の箇所に挿入、戻してやることになります。空欄イやロまでは「風景」はあっても、それと対比になる「景色」は出てきません。空欄ハの前に、「景色とは主に自然のありさまを指す言葉であり、他方、風景とは、自然にかぎらず、なんらかの趣をそこに読みとっての、見る側の主観の入った言葉である。」とあり、はじめて「景色」と「風景」をきちっと対比させる表現が出てきます。したがって、ここに入れます。他も確認しておきますが、空欄ニやホの直前には「景色→風景」の対比はありません。

問4《空欄補充・文中から抜き出し》

空欄にして本文中の適切な語句を埋める問題も、脱文挿入と同様に、早稲田大学の各学部でよく出るタイプの問題です。漢字二字という指定とジンメルの「風景の哲学」の引用部分からという指定が設問文に含まれるヒントです。空欄箇所は、「風景が

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ひとつの精神的な b だ」となっており、最大キーワードである「風景」の説明をするわけです。しかも「精神的」と関連づけて。そこで、ジンメルの引用箇所で「精神的」に近い表現としては、「直観と感情」があります。引用箇所の前にも「風景とは～見る側の主観の入った言葉」とあります。風景はただありのままの自然の眺めではなく（それは景色）、人間の心の中で、作りだされ、生まれるもののようです。では、肝心の引用箇所で「風景の成立」をどう語っているか。「直観と感情のうちに脈々と生動している生が、自然の統一から身をもぎ放す。しかしそうして作りだされ、全く新しい層に移送された特別な形象」とあります。まことに難渋な表現ですが、「形象」が〝作られたもの〟を意味することは、かろうじてわかります。そう、「形象」、これが正解です。風景とは「精神的な形象」、心の中の世界で作られたものということになります。

問５《詩の表現技法・選択肢》

韻文（詩のこと）の表現テクニックであるリフレイン（繰り返し）が問われています。第一連（最初のかたまり、四行）のうち、第二行目と第三行目に「煉瓦干されて」があり、反復によって言葉のリズムを生んでいます。これにならって第二連（後のかたまり）第二行目「煙草を吹かした」と第三行目が反復になる必要から、ハの「煙草吹かして」を選びます。散文（小説や論説）では、反復はくどいと感じられ、対比を出しながら言い換え説明をしていくのが基本的なスタイルです。一方、詩＝韻文は、なにより説明ではないと言われるように、言葉そのものの響きを大切にします。

問６《全文の理解・誤りの選択》

本文の記述からは推測できない誤りを選ぶ問題です。筆者は肯定的な意味での「退屈」と「風景」をふまえて、中原中也賞受賞式での「余興」として、「使える材料としては、だからあの煉瓦工場が登場する『在りし日の歌』の「思ひ出」しかなかったのである」と言っています。筆者が『在りし日の歌』の中で「思ひ出」が「好き」とは推論不可能です。したがって、イが正解です。ロはどうか。修学旅行のバスの道中で強いられた余興を「つまらない」と表現しています（カラオケで歌うとか一発芸を披露するとかしなければならなかったのでしょうかね）。したがって「筆者は修学旅行の集団余興のたぐいを楽しく愉快なものとは思っていない」は、正しく推論されえます。ハの「筆者は修学旅行の際感じた風景の退屈さの質について十分に理解してい

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

る」は正しく推論可能です。この「筆者」はこの文章を書いているときの筆者ですからね。修学旅行「当時の私」は、「この『退屈』の質の相違に、きちんと言葉を与えることができなかった」とありますが、今や筆者は本文中にて存分に「退屈」について語っています。ニの「筆者は煉瓦も言葉も何かを構築するものだがやがて変質してゆくと考える」はどうでしょうか。最終段落に「煉瓦を言葉に置き換える」という表現がありますよ。さらに「時間」「育てられていく」「生まれ変わる」などという表現もありますから、推測可能と言えるでしょう。ホの「筆者は日々繰り返されるような退屈さの中に捨てがたい魅力を認めている」は、もちろんＯＫです。

模範解答

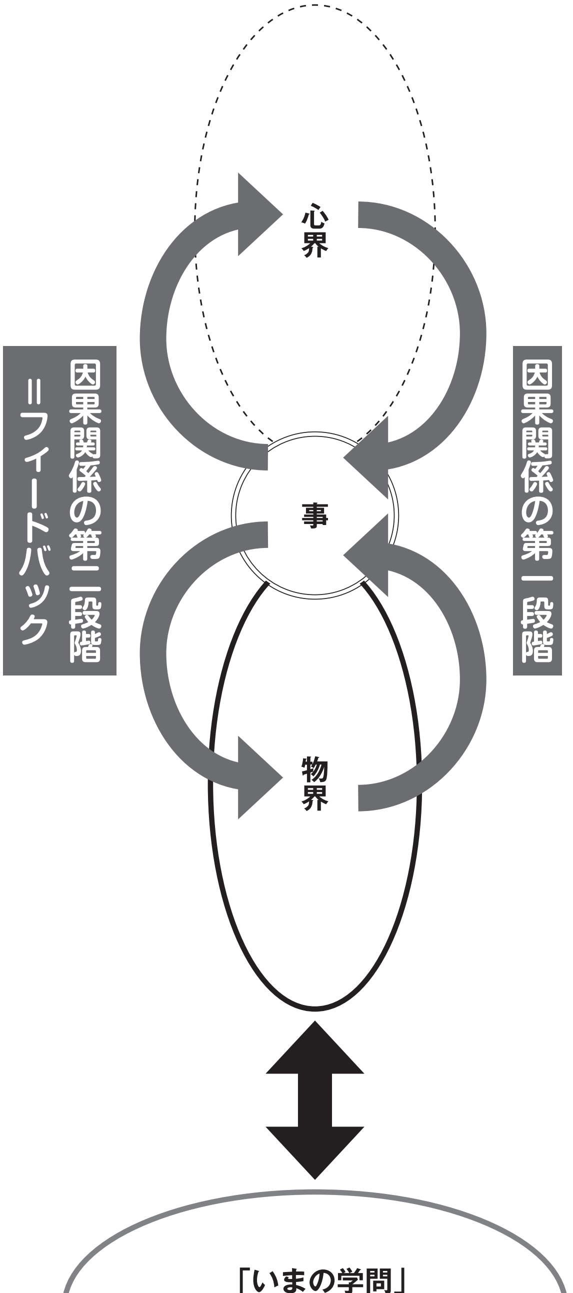
問１＝イ　問２＝ホ　問３＝ハ　問４　形象　問５＝ハ　問６＝イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　文化構想学部　認識論・科学論

《本文の対比構造》

主役＝南方熊楠の思想



敵役

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

関連した複数の文章を一度に読ませるのは、文化構想学部だけの大きな特徴です。

問1《傍線部説明・選択肢》

いきなりこの文章の中心、核心部分です。心単独でもなく、物単独でもなく、両者がまじわるところが「事」です。《本文の対比構造》をご覧ください。実は、南方熊楠自身がこれと同じような図をスケッチしています。Aの文章では、傍線部の直後に具体例があります。それによると「自分の頭の中に生まれた非物質的なプラン」は「心界」にあるもの、「土や木やセメントや鉄」は「物界」にあるもの。それらが別々にあるかぎり、建築は生まれない。両者が「あいまじわる境界面」にあらわれる現象が「事」であり、建築も「事」である、というわけです。これと似た事例をBの文章中に求めるのが、この問1の設問条件です。

するとイ「電気が光を放ち、光が熱を与うること」、ニ「これこれの水をこれこれの温度にたけば、これこれの蒸気を生じてこれこれの大いさの物を動かすということ」、ホ「石が墜ちて瓶にあたれば、石が因となりて瓶を破るようなこと」は、すべて「物界」だけのこと。部分的指摘の誤りと呼んでもよいですし、動画講義ではカラーリングを変えてますから、対比混乱の誤りと呼んでもOKです。一方、ハの「今日悪念を生じたりとて明日別にこれがために懊悩せざること」は「心界」のみのことです。これも部分的指摘の誤り、もしくは対比混乱の誤りです。頭で思い描くだけなら犯罪という「事」、事件を構成しないというわけです。ああ、よかった。両方そろって「事」を成すのは、ロ「心がその望欲をもて手をつかい物を動かすこと」です。

問2《傍線部説明・抜き出し》

傍線部の直前にあるように、「事は異質なものの出会いのうちに、生成される」わけですが、それっきりでは終わらずに、その後も相互影響して、「連鎖」していきます。つまり、心と物の出会いで、なんらかの出来事を成し、その出来事を見て、さらに心に浮かぶものがでてきて、手に物を取って行動に移すということがあるよ、という意味です。詳しく言うと、物と心が出会って、これが原因で事という結果が生じる、これを〝因果関係の第一段階〟としましょう。さらにこの後、「事」という結果から心が動き、また物とセットになって新たな「事」を成す原因となる、これを〝因果関係の第二段階〟としましょう。傍線の「フィー

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ドバック」はこの〝因果関係の第二段階〟を指しています。さて、「フィードバック」なんていかにも現代人が使いそうな外来語ですが、これを古い文体のBから探すのが問2の設問条件です。

Bの文章は、文体こそ古いですが、具体例だらけです。最終段落もそうで、「石」「瓶」「ぬすむ」といった具体例の後で、「この物心両界が事を結成してのち始めてその果を心に感じ、したがってその感じがまた後々の事の因となるなり。」とまとめています。この部分が答えになります。「物心両界が事を結成」するだけでなく、傍点を付けたように、その後の因果関係、影響関係つまり〝因果関係の第二段階〟まで書いてあることが決定打です。というのも、「物心両界が事を結成」と同種の表現は、Bの第一段落に「この心界が物界とまじわりて生ずる事ということにはそれぞれ因果のあることと知らる。」とありますが、これは〝因果関係の第一段階〟だけです。

この他、「小生は何とぞ心と物とがまじわりて生ずる事によりて究め〜」の部分も、「ただ心界に感ずる因縁応報というは、心界が物界に接して作用（事）を生ぜし上のことで始めてあらわるるものと思う。」も同様です。〝因果関係の第一段階〟と〝因果関係の第二段階〟の両方が入って「フィードバック」ですから、〝第一段階〟のみでは部分的指摘の誤りと言えそうです。

問3《傍線部説明・選択肢》

主役キーワードである「事の世界」の説明です。しかも、物理学や量子論の「観測問題」と呼ばれるものも「パラドックスに満ちた事の世界」だと言うのです。「心界」と「物界」の出会う境界面の世界ですから、物だけで分離できない。観測しようとしている人間の意図（心）と分離したところで、物界だけで決定できない（決定不能の事態）ということです。ある部屋の室温を厳密に測定しようと思ったら、測定しようとしている人間の体温が影響してしまう。じゃあ、人間は遠くから観察して温度計だけ置いておく。でも、温度計の電池や液晶画面の微妙な発熱がやはり室温に影響してしまう。つまり、観測したいと思う人間の意図、行為が対象に関与してしまう。室温を測りたいのに〝室温それ自体〟というものを分離して決定することができない、この矛盾を「パラドックス」と呼んでいます。「パラドックス」には〝二重性〟という意味もありますが、この文中では心と物の二重性ということになります。

正解は、「人間にとって観察の対象となる物は、かならず観察者自身の心が関与する事として現われるため、観察者から独立

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

した物として対象化できなくなる」としたニです。ロとホは、それぞれ「分離して考察」「切り離す必要がある」が×。分離できないのです。真っ向から記述に反する誤りです。ハは、まず「異質なものの出会い」と言っておきながら、「ほかの諸物と比較」とやってしまいました。つまり、物と心の出会いというべきところを「物と物」になっています。部分的指摘の誤りです。さらに「～しなければ客観的観察は難しくなる」としていて、あたかも「客観的観察」を求めているかのような表現です。実際は心＝観察者が参与・関与しないような純粋な客観はない、ということですから、ここは記述に反する誤りです。イはどうでしょう。「観察に際しては、かならず心の状態を一定に保つことが求められる」が笑えます。〝実験は平常心でやれ！〟〝試験管をもつ手がふるえないように深呼吸三回してから実験を開始せよ〟ってな感じです。話が小さくなっています。不当な矮小化の誤りです。現代文ができるようになると、笑える選択肢が増えてきますが、試験中は失笑程度におさえましょうね。

問４《傍線部言い換え・抜き出し》

「事の条理」とありますが、「条理」とは〝筋道・道理〟のことです。詳しく言えば、〝一本筋の通った論理的な説明〟〝詳しい内容〟ということです。したがって、ハの「事の本質」が正解です。これは言葉の意味からだけでなく、次のことから導けます。すなわち「今の学者、ただ箇々のこの心この物について論究するばかりなり」との表現とセットになっていることが決定的な根拠になります。つまり、「今の学者」がわかっていないこと、「いまの学問」に欠けているもの、それが「事の条理」であり「事の本質」です。

他の選択肢もチェックしておきます。イの「事という概念」はどうか。「概念」は、言葉です。言葉自体ではなく、その言葉の意味内容が大事です。やはり「事の本質」のほうがよい。ロ「事の連鎖」、ニ「事の痕跡」は具体例中に出てくる言葉です。具体例は、一段、落ちるです。ホの「運動である事」は、ダイナミックな面もあるという「事」の一面を指しているものです。「事の本質」よりもいいとは言えません。こうした、完全な間違いとは言えない候補もある中から、よりよいものを選択する能力を早稲田の現代文では求めてきます。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問５《全文の理解・選択肢》

ホの「心界から独立した純粋な物界などというものは存在できない」が正解です。Ａは、Ｂの内容を言い換えて解説するような文章ですが、「二十世紀の自然科学が量子論の誕生をまって、はじめて直面することになった『観測問題』の要点」は、当然、Ｂでは直接書かれていません。その要点が「心界から独立した純粋な物界などというものは存在できない」です。

他の選択肢をチェックしておきます。イ「事は心と物があいまじわる境界面のようなところにあらわれる」、ロ「いまの学問にいちばん欠けているのは、事についての洞察だ」については、「この心界が物界とまじわりて生ずる事ということにはそれぞれ因果のあることと知らる。その事の条理を知りたきことなり。今の学者、ただ箇々のこの心この物について論究するばかりなり。」と第一段落にありますよ。ハ「人の心に悪い考えがおこったとしても、その考えが物界と出会わなければ、将来に報いをつくりだすとはかぎらない」は、「今日小生善を思いたればとて、別に思うただけの報を思うものにあらず。また悪念を起こせりとて、別に後日これがため悪事を念うということもなく」と最終段落にあります。ニ「心界におこる動きが、それとは異質な物界に出会ったとき、そこに事がつくりだされる」は、問２の解説で書いたように、いわば心と物の〝因果関係の第一段階〟ですから、あちこちに出ています。

模範解答

問１＝ロ　問２　この物心両　問３＝ニ　問４＝ハ　問５＝ホ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　法学部　学問論・弁証法

《本文の対比構造》

主役＝筆者の見解

真に学者らしい学者
全生涯を通じて大きな思想的転回をする
例　イェーリング（概念法学→自由法学）
ヴィントシャイト（自由法学→概念法学）

主な対比

敵役

- 学者の変説改論を無節操と非難する一般論
- なまじ自説を固持するために、自らも無理とは知りつつ無理を押し通そうとする学者
- 根本に確固たる信念を持たずに、四囲を見まわして絶えず時流を追うような学者らしからざる学者

小さな対比

脇役

小さな波

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《傍線部言い換え・抜き出し》

傍線部分と同じ趣旨の言葉を本文中から抜き出させる（ただし選択肢付き）このタイプの問題は、学部を問わずよく出題される早稲田大現代文の特徴です。選択肢選びの大きな基準は〝具体例は、一段、落ちる〟ということです。傍線部はまとまったメインメッセージ、最大キーワードであることが多く、その「最も適当な」言い換えを選ぶ以上、具体例は選ばないということが選定基準です。

イ「先駆者」、ロ「大悟に徹底（迷いを捨てること）」、ハ「交互的転回」は、イェーリングとヴィントシャイトの具体例中に出てくるものです。正解にはなりません。とくに「交互的転回」は、二人がたまたま、人生の前半と後半で立場が入れ替わったこと（概念法学と自由法学の交換）を表現したものです。ニの「微妙な波動」は、対比混乱の誤りです。変化・波・動揺は「大きな波」の方がよいのです。正解は、最終段落のホ「相互的批判」です。これは「テーゼとアンチテーゼとの闘争」、弁証法による「学者の進歩」を表現したものです。

問２《傍線部説明・選択肢》

筆者が言うところの「真に学者らしい学者」の具体例がイェーリングです。その「朗らかな態度」とはどんなものか。具体例に入る直前に（第一段落の終盤のところで）、「偉大な学者の全生涯を通じて行われた思想的転回の跡をたずねて、そこに一貫した合理性を見出すこと」とあります。真面目に学問に打ち込んでいるからこそ、自説の誤りにも気付けるし、それを乗り越えて成長していく。誠実な学者の長い人生ではそういうことは当然のように生じるということでしょう。逆に「なまじ自説を固持するために、自らも無理とは知りつつ無理を押し通そうとする学者」を批判しています。

正解は、ヲです。「学説を転回したのは、学者の全生涯における発展として自然」がよいです。ルの「態度は、正々堂々としていたから」では、マンマです。コソコソせず、背筋ピーンだったから!?　これじゃ物理的スリカエの誤りです。学者としての知的成長、発展の必然性という内容に触れないとね。ワとカは同種の誤りです。それぞれ「概念法学から自由法学に変説したのは、学問上の論争の当然の帰結」「概念法学を捨てて自由法学へ転向したのは、法学の発展として合理的」とありますが、「自由

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

法学」の方が優れているからそっち側に行きつくのは当然としている点が誤りです。というのも、本文によれば「自由法学」と「概念法学」はどっちも重要なものなのです。「一体、法学における概念法学的傾向と自由法学的傾向とは、それ自身正反対なものであるにもかかわらず、そのいずれもが法学にとって欠くべからざる要素」と第三段落にありますよ。したがって、記述に反する誤りとも言えますし、部分的指摘の誤りとも言えます。こうして同種の間違いが選択肢のにぎわいとして出てくるということも知っておきましょう。解答時間の短縮につながります。ヨは、笑えます。「先輩学者に率直に旧説の誤りを告白して学説を転化したのは、好感がもてる」、つまり、先輩に対して素直でいいヤツって、昔の体育会系かよ！（法学系だよ！）これは不当な矮小化です。こういう楽しい間違いに気付けるようになると現代文の受験勉強もつらくはないかも。

問３《傍線部説明・選択肢》

問２とも問４とも関連しますが、知的な発展として「真面目」な学者は学説を変えることがある。いや、むしろ必然的に学説を自ら問い直し、論争・闘争しながら（他者との対話や自己内の対話）、大きく波打つように進歩していく。一般的に考えられるような進歩の仕方ではなくジグザグ進行していくのです。「大きな波」「波長」「動揺対立」という言葉が本文に見られます。したがって、ツの「発展は、単純に積み上げられることによってではなく、論争に由来する曲折を経て実現」がよいです。正解です。

タはどうか。「陣営を交換し」がいけません。イェーリングとヴィントシャイトはたまたま、概念法学から自由法学へ、また自由法学から概念法学へと「陣営を交換」しました。これはおもしろい偶然的具体例であって、すべての「真面目」な法学者がこうなるわけではありませんね。具体例は、一段、落ちる、を適用します。レとソは同種の間違いです。それぞれ「常に現実における実践を導入し」「実践の中で否応なしに変化する」は、「自由法学」の立場（現実に合わせて自由に、法解釈を柔軟に適応する立場）だけを語るものです。つまり、部分的指摘の誤りです。また、自由法学と概念法学の両方が「法学にとって欠くべからざる要素」という記述に反する誤りとも言えます。ネの「探求は概念法学的傾向と自由法学的傾向のどちらかに決着する」はどうでしょうか。どちらも重要なのであって、「どちらか」ではありませんぞ。これも部分的指摘の誤りおよび記述に反する誤りとなります。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問４《空欄補充・選択肢》

「一体、人間の思想的進歩は、決して［D］的に行われるものではない」とありますから、Dは敵役、一般的な進歩のイメージが入ります。一方「闘争のあらわれとしての［E］」は筆者側の見解です。「波」「波長」「動揺対立」の方です。あらためてDはその反対ですから、ムの「直線」とヰの「一方」が生き残ります。他はこの時点ですべて×。正しい対比喪失の誤りです。本文中で「交換」は、あの二人の「交互的転回」のことです。ではEの部分はムの「動揺」か、ヰの「交換」かで考えます。「交換」はそれでしか出てきません。つまり、具体例にすぎません。ここでも具体例は、一段、落ちる、を適用します。ムが正解。

問５《傍線部説明・選択肢》

筆者は「テーゼとアンチテーゼとの闘争」がうまく進むために「準備」することをすすめています。「心の中だけで」「言わずともまた書かずとも」自己内対話、「自己闘争」を始められる人もいるでしょうが、書いた方がよい。つまり、「現在思っていることを言葉なり文章なりに体現して、それを完全なる外物に固定した上で、それをテーゼとしてただちにそれと心中のアンチテーゼとを闘争せしめたほうが、より容易に進歩を遂げ得るのではなかろうか」と語っています。

したがって、ノの「考えていることが言葉あるいは文章として外在化され、対象化されやすくなる」が正解です。オは「聴衆によく理解され」が記述に反する誤りです。自己理解の深まり、自己内対話ですよ。また「質問や反論がそれだけたくさん出て」も誤り。数の問題じゃありません。単発の反論か複数の反論かは比べてないよ。正しい対比喪失の誤りです。クはどうか。「自分の主張の中の未消化な部分」が×。これは自分の未熟部分、勉強不足部分です。そうでなく、十分に勉強し用意したからこそ、まったく正反対の意見が出てくると言っているのですよ。したがって〝勉強不足・未消化⟷もっと勉強〟は正しい対比喪失の誤りです。ヤは「論破」がイケマセン！　論争、闘争、対話から意見を発展・進歩させることが大事で、相手をやっつけて自己の正当性を主張するのではありません。記述に反する誤りです。マは「論争〜その行く末をより的確に予測できる」が×です。予言能力の話ではありませんぞ。論争そのものを進めて行く能力の話です。記述に反する誤りです。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問６《傍線部説明・記述》

「テーゼとアンチテーゼとの闘争」の言い換え説明です。弁証法のことです。動画講義と問題編テキストの語句解説からこのキーワードの理解を深めてください。一方で、もし弁証法という用語を知らなくても、設問条件にしたがって、「テーゼ」「命題」「アンチテーゼ」「反命題」「闘争」という語は使用せず、つまり本文の別の言葉で言い換えていけば答案は作成できます。得点になるポイント箇所その１は「テーゼ・命題」の言い換えで「己自らの意見（考え）」「自分の意見（考え）」「ひとつの意見（考え）」などの表現です。ほぼ同趣旨なら○です。第二ポイントは「アンチテーゼ・反命題」の言い換えです。「反論」「反対意見」「反対物」などでＯＫです。第三ポイントが「闘争」の言い換えで、「論争」「対立」「対話」「会話」「対決」「矛盾」などでＯＫです。さらに第四ポイントが「進歩」「発展」などの表現です。本文にはありませんが、知識を生かして、「止揚する」「揚棄する」「アウフヘーベンする」としても○です。

弁証法については、『高３トップ&ハイレベル現代文』第十三講でも特集しています。ぜひこちらも参照してください。弁証法を知らずに大学という高等教育機関へ進学するなんてことはあってはならないことです（と私は思っています）。予備校の授業でも一年間の中でかならず複数回触れるトピックです。

模範解答

問１＝ホ　問２＝ヲ　問３＝ツ　問４＝ム　問５＝ノ

問６　己自らの考えを明瞭にし、己と対立する考えとの論争を経て、思考を発展させること。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　文学部　芸術論・建築論

《本文の対比構造》

主役＝利休の茶室

反日本建築・反住居
土壁に囲まれた密室・閉鎖空間
暗い部屋
個の自覚を得たブルジョワジーの私的な祭祀の場所

↕ 主な対比

比較相手＝日本の伝統住宅

庭を眺めるための住居
庭が中心・建築は付属物
柱主体の開放的な構成

↔ 類比

脇役

デカルト的主体
カメラオブスキュラ
暗い部屋・ピンホールカメラ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《余計な文の指摘》

前後の文とつじつまが合わない不適切な文を見つける問題は、早稲田大学が好んで出題する設問形式です。選択肢問題ならば、対比混乱の誤りや正しい対比喪失の誤りと呼ぶような箇所を、文中から見つける作業と考えてください。

日本住宅の伝統や平均的イメージを語った第一段落が終わり、千利休の茶室の特別さを語っている第二段落、ここに注目してください。庭を見るために開放的な作りになっている伝統的な日本住宅に反し、「密室」です。「茶室内部からこの庭を眺めることはできない」のです。「窓」はあるけれども、庭を見るためではなく「明かりを採り入れるため」です。そういう話の流れの中に、突然「そして建築における〈日本的なもの〉の古典性は、やがてこの〈近代〉の視座から遡及的に構成されることになる。」というヘンな文に出会います。「〈反日本建築〉」の話をしているのに、いきなり「〈日本的なもの〉」の話になっています。まず、この違和感に気付けるとよいですね。

これ以外のおかしな点も指摘しておきます。それは、「この〈近代〉の視座から」です。たしかに、利休の茶室は、「個の自覚」を高めるもので、近代的な性格をもっています。しかし、それらについては、ずっと後の段落、第五段落以降に書かれる内容です。したがって、第二段落で「この〈近代〉の視座から」と出すのは突飛すぎです。

さらにもう一つの違和をお伝えします。「そして建築における〈日本的なもの〉の古典性は、やがてこの〈近代〉の視座から遡及的に構成されることになる。」だと、千利休の茶室と日本の伝統建築が連続したものであるかのようです。これじゃ対比混乱です。以上のように、コテンパンに間違えてますね。

問２《空欄補充・選択肢》

１　「日本の伝統において、庭こそは［１］だったのであり」とありますから、主役（千利休の茶室）ではなく比較相手の説明になります。空欄前後にヒントがたくさん出てきます。「庭を中心」「建築はむしろその付属物にも似た地位」とあります。つまり、建物は「庭を眺める」ためのいわば客席で、庭こそ見るべきステージというわけです。したがって、ロの「文化的表現の舞台」が正解です。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

他の選択肢を吟味します。イ「モダニズム美学の極致」はどうか。「モダニズム」は近代主義（現代主義）ですから、コンクリートとガラスを多用した近代建築を想像してしまいます。これじゃ「伝統（いわばプレ・モダン＝前近代）」に反します。記述に反する誤りと言えます。ハの「日本建築史における特異点」はどうか。「特異点」は異質で特別なものという意味です。それは千利休の茶室に当たりますから、対比混乱の誤りです。ここは、日本建築史の流れ、そのまんまでないとね。ニの「建築空間の再現」はどうか。「再現」ではダメです。「中心」の言い換えでないと。記述に反する誤りです。

2

「芸能としての茶の湯が演じられる［2］だった」とあります。主語は「この暗い部屋は」です。つまり、千利休の茶室の説明になります。つまり、「密室」「非常に閉鎖的な空間」であり、住むための住居ではなく、茶の湯が演じられる「聖所」「日常的な身ぶりの美を集約」した場所です。ニの「非日常的な空間」が正解です。いいですか、日常そのままではなく「日常的な身ぶりの美を集約」ですからね。お茶を飲む場所といっても、喉がかわいてゴクゴク、プハー、おかわり！　じゃありませんからね。芸術芸能としての茶なんですから。

他の選択肢を吟味します。イはどうか。「演劇性に満ちた」はOKですが「都市」が×です。デカイですね。もう密室じゃなくなってます。記述に反する誤りです。ロはどうかな。「舞台」はOKです。ところが「即物的」がイケマセン。これじゃものの情趣、感動や感激などおよそ芸術芸能に反することになります。記述に反する誤りです。ハは「密室」はもちろん○ですが、「機能化された」が×です。〝茶室の畳を裏返すとシステムキッチンがせり出してきます、うわ、機能的！〟〝天井から茶道具一式が収納できるコンテナー・ラックが下りてきます、うわ、機能的！〟〝炉がなくても湯が沸かせるＩＨクッキングヒーターを採用しました、うわっ機能的！〟って、違うだろ！（スミマセン、長々と一人でノリつっこみをしてしまいました）。つまり「機能化」とはそういうこと。「空虚な〈空き家〉」とは似ても似つきません。はい、記述に反する誤りです。

3

「ブルジョワジーにおける［3］」は、次の段落で、「茶室はいわば個の自覚を得たブルジョワジーの私的な祭祀の場所」と言い換えられています。また、伝統的な「村落共同体的な集団の束縛」に対する「個人」重視であり、「強烈な〈個〉の

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

意識」の言い換えになります。したがって、イの「自我意識発生の表れ」が正解です。

では、他の選択肢を吟味してみます。ロの「世界認識の逆転現象」は、全然間違いとは言えませんが、内容が不十分です。どんな「逆転」なのか、個・個人重視への逆転だよと言ってくれないと不十分です。イはそれを語ってくれました。ゆえにロは不採用です。ハの「身分制度超越の萌芽」はどうか。本文にもあるように「私的」なものです。「制度」というような社会的・公的なものではありません。茶室の躙口は小さすぎるから武士は刀を持ち込めないとか「身分の上下は原則的にこの空間内では無視される」とありますが、その場かぎりのお約束ということで、身分制度を改変するようなきざしではありません。さらに、「商人という身分ゆえに」ともありますように、「身分制度」を超えるようなものではありません。記述に反する誤りです。ニはどうか。「想像空間の形成」とありますが、「想像」が×です。現実ですよ。記述に反する誤りです。あるいは、〝伝統と反伝統〟がこの文章の対比ですから〝現実と想像〟では、正しい対比喪失の誤りと言えます。

問３《傍線部説明・選択肢》

傍線部「茶座敷と露地との差がない〈ぬるさ〉を嫌って」は、茶室をつくった千利休の考えです。「ぬるさ」とは、伝統的な日本住宅の「曖昧」さのことです。つまり、庭が見えるように建物と外とは「連動」「連続」して「開放的」であった。これに反して利休の草庵茶室は、「内部と外部に峻別（厳しく区別）」されていた。したがって「室内と外部空間とのコントラストを強めようとして」としたイが正解です。コントラストは対照・相違ということです。

他の選択肢はどうか。ロの「日本建築の古典的な性格をそのまま受け継ぎ」は、あきれかえってでんぐり返ります。比較相手の方を答えてしまいました。これを対比混乱の誤りと呼ばずして他に何と呼ぼう！　ハは「外界との連続性を取り戻し」が、×。これまた対比混乱の誤りです。ニは「茶室が自らの完結した評価体系を持つ」がダメ。いい茶室か、そうでないかの評価、茶室評価ランキングの基準などいっさい比較されていません。正しい対比喪失の誤りです。

問４《傍線部説明・選択肢》

「〈見立て〉」「記号」「翻訳」といった言葉は、いずれも、あるものを別のあるものに置き換えること、なぞらえること、何か

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

に見なすことです。本文では、［2］の後に、「閉ざされているからこそ、床に生けられた花はただ一輪で自然の四季を表す」とあります。外界と連続していたら、一輪挿しは、庭の草花の中に埋もれてしまいますからね。閉鎖空間の床の間の〝舞台〟でこそ、〝この一輪で春を表現してみました〟などと言うことができるわけです。ロの「本来の性質を超えて表象のレベルで新たな意味を持ち」がよいです。「表象」は「表現作品」という意味があります。

では、他の選択肢をチェック。イは「一度全てばらばらにし」が×。〝好き、きらい、好き、きらい……〟なんて花びら一枚一枚ちぎるのでしょうかね。記述に反する誤りです。一輪挿しはそのままです。ハはどうか。「新しい色彩を付与」「全く違った生命」がイケマセン。まったく間違いではありませんが、この「新しい色彩」「全く違った生命」は比喩ですよね。比喩による説明は、説明としては一段、落ちると知っておいてください。具体例が説明として、一段、落ちるのと同様に。うちの奥さんを説明するとき、〝にこやかにピアノ指導の仕事に携わる一方、予備校講師である旦那を厳しくバックアップしてくれる存在〟と書くと、かなりよくわかりますね。これを〝まるで太陽である一方、北風のような存在〟では説明としてはボヤっとしてしまいます。日本経済の説明ならGDPの推移や物価指数、株価、失業率を明示しますよね。それを〝どしゃぶりとは言えないくらい〟なんて説明だと曖昧でしょ。だからといって、この「新しい色彩」「全く新しい生命」を比喩ではなく文字通りに解釈するともっとへんですよ。一輪挿しにペンキを塗ってみた、とか新種の花を発見した〝ダイスケバナ・コシバーノ・ヤパナ〟と命名したというようなことになってしまいます。

ニはどうか。「象徴性」はいいね。〝この一輪挿しは秋の象徴・シンボルです〟ってね。しかし、「世界を全てシンボルの宇宙と考える」が×。密室空間を忘れているね。不当な全称判断です。

問5《空欄補充・抜き出し》

問1の3と関連した問題です。茶室にこもって「執り行った、［甲］を高め合う儀式」とほぼ同じ表現が、最終段落の冒頭にあります。「茶室はいわば個の自覚を得たブルジョワジーの私的な祭祀の場所」という表現です。「儀式」と「祭祀」はそっくりな表現です。このように、問われている空欄の周りの表現の類似が、解答のヒント・根拠になります。では、その儀式で何を高めたのか、字数三字から五字で抜き出せば、「個の自覚」となります。なお、前の段落に「〈個〉の意識」とあり、同趣旨ですが、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

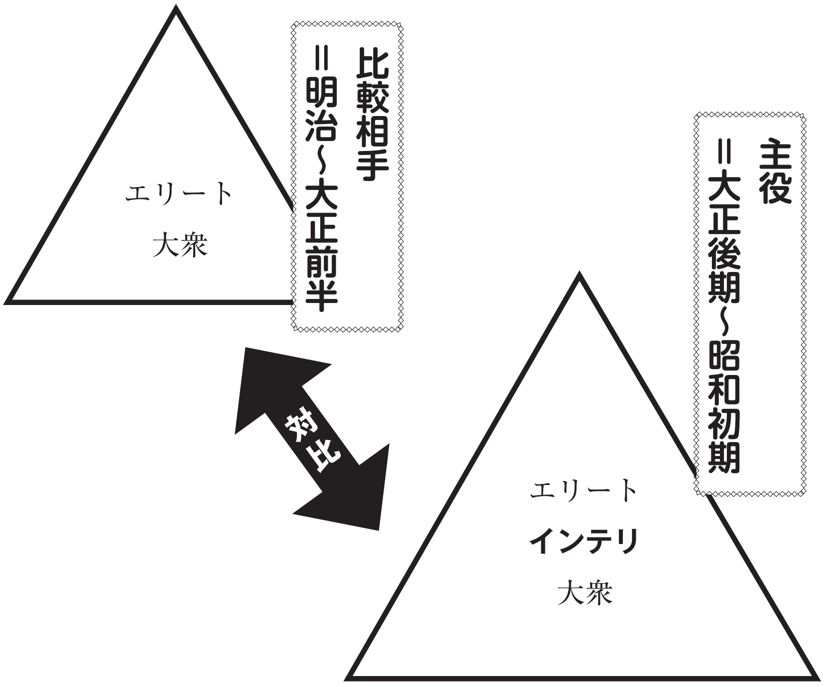
六文字で字数オーバーです。「〈個〉」は三文字ですが、「自覚」「意識」といった表現を欠くため、完全解答とは言えません。△です。

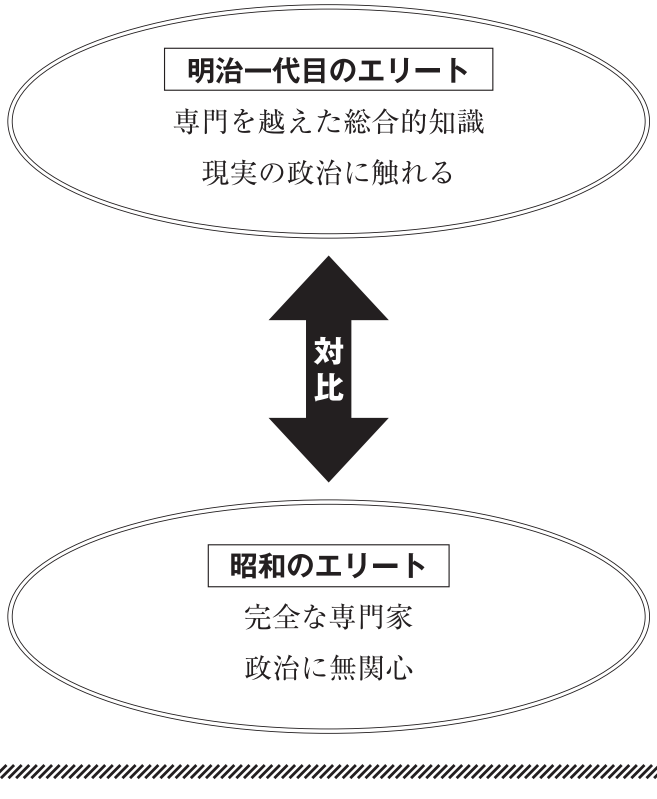
模範解答
問１　最初＝そして建築　終わり＝となる。
問２　１＝ロ　２＝ニ　３＝イ　問３＝イ　問４＝ロ　問５　個の自覚

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第五講　商学部　近代化社会論

《本文の対比構造》





© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《空欄補充・選択肢》

空欄直前に注目しよう。「本来、エリートとは定義上、選ばれた少数者のこと」です。したがって、「その数が膨張すること」は定義矛盾・語義矛盾になる、言葉の本来の意味に根本的に反することになる。したがって、ロの「エリートの存在根拠そのものを危くする」が正解です。

他の選択肢を吟味してみましょう。イは「客観化される」が×です。これでは目に見えるかのように確かなものになるということになり、正反対です。同様に、ホの「エリートの存在価値をより確かなものにする」もイケマセンね。ともに記述に反する誤りです。ニの「エリートの大衆への影響力が強化される」も似たような間違いです。エリートの定義上の危機なのに「影響力が強化」されるというようなポジティブなことにはなりません。ハの「エリートの階層性を無意味なものとする」はどうか。〝エリートの本来の意味に反する〟ならＯＫですが、「階層性を無意味にする」ではＯＫと言えません。階層も階層意識も残り続けますし、むしろ主観としてはむきになって自分たちはエリートだぞという意識が増すわけですから。「意味」という語に一瞬、心ひかれますが、「無意味」と〝本来の意味に反する〟でははっきり違いがあります。こういうところは、早稲田大学らしく、難しい選択肢になっています。

問２《空欄補充・抜き出し》

「いうまでもなく」という表現が付いていることから、この空欄より前に一度は書かれている語句が入るということがわかります。「エリート」「知的な中間階層」「旧来の大衆層」の三者の比較ですが、「大正後期」以降、新たに登場し区別が生じたのは「エリート」と「知的な中間階層」です。そのうち、「下積みに置かれた側」とは、まさに言うまでもなく「知的な中間階層」です。これが答え。

問３《傍線部説明・選択肢》

エリート・学界人と言っても「明治一代目」と「昭和の学界人」では、似て非なる重要な違いがあり、そこが対比されていま

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

す。わかりやすいとは言えない表記であるため、みなさんは難儀であったかもしれません。しかし、それでも区別は可能です。難易度が高まっても〝対比がわかったかな？〟と問うてくる点では、すべての現代文入試の本質と変わりありません。

では、どこで区別がつくか。直後の段落の「彼らの心の拠りどころは、西洋の近代文化と東西の古典的教養であり、その誇りの根拠は、それらの文化に原典を通じて触れていることであった。彼らは一、二の外国語か、漢文、あるいは日本の古文に通暁し、多くの場合、当時はまだ珍しかった外国留学の機会を持っていた。彼ら自身は他人の翻訳に頼ることを軽蔑した。」までが、「明治一代目のエリート」の伝統であり、「昭和の学界人」もそうあろうとしたモデルです。

ところが、「昭和の学界人」には、その先輩モデルとは異なる側面があります。それが「のみならず」以降の特徴です。「のみならず、大学の内部には一般にジャーナリズムにたいする軽侮の念が高まり、研究者相互のあいだでも、新聞や商業雑誌に執筆する同僚に微妙な反感が向けられるようになった。彼らの信じるものは時流を越えた真理であり、行動の規範は学問研究の求めるディシプリン（規律）であって、当然、その生活態度は孤高の尊重に傾いた。彼らの大部分は政治に無関心であるか、あるいは現実政治を軽蔑するという意味で、きわめて観念的な反体制主義に与（くみ）していた。」の部分です。その後の段落に「彼らはまさにこの点において、彼らの憧（あこが）れる明治一代目のエリートたちと違っていた」とあるのが、決定的なヒントです。

したがって、「伝統」にあてはまるのは、ハの「東西の古典的教養」とニの「外国留学の経験」です。その他は、すべて「昭和の学界人」の特徴ですから、対比混乱の誤りということになります。

問４《傍線部説明・選択肢》

Ａ　「大正後期に始まった知識社会の急激な膨張、いいかえれば、知的な階層性の急速な曖昧化（あいまいか）」という社会変化にたいして、生じた「皮肉」は、「知識人のあいだにかえって主観的な階層性の意識を増大した」ことです。社会の変化で、選ばれし少数者としてのエリートの在り方があやしくなると、「主観」「意識」レベル、つまり心の内面レベルで抗いたくなるということですね。したがって、トの「状況とはうらはらな内面の動き」が合致します。

Ｂ　「『発刊の辞』の筆者が表向きは知的な『民衆』の側に身を置きながら、じつは明らかに、岩波文庫を作ってそれを啓蒙す

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

る側に属していたという事実であろう」というのが、皮肉の内容です。「表向き」⟷「じつは」の対比、矛盾、皮肉は明らかですね。したがって、ニの「見かけと矛盾する実質」で決まりです。

D　「彼らはまさにこの点において、彼らの憧(あこが)れる明治一代目のエリートたちと違っていた」が皮肉の箇所ですが、「彼ら」とは、「昭和の学界人」のことです。問3でも解説したとおり、傍線直前の段落の前半は、「明治一代目のエリート」に倣った共通項目。後半が、その憧れのモデルとは異なる「昭和の学界人」の特徴でした。したがって、ハの「目標とくい違う到達」が正解となります。

問5《全文の理解・誤りの選択》

間違い探し二つというのは、早稲田大学商学部の伝統ですね。イについて、第三段落に「それ（新たな中間階層）とともに急成長を見せた新聞、出版ジャーナリズム」や「主としてジャーナリズムに拠るインテリのあいだで、しだいに目に見えるかたちで分裂を深めて行った」という記述がありますから、「ジャーナリズムの発達は、エリートとインテリとの階層的分化を促進した」とのイの書き方は妥当と言えます。

ロはどうか。「昭和初期のエリートの排他的態度」は、「ジャーナリズムにたいする軽侮の念」「政治に無関心」などと合致します。「自己の優越性を確保する」も知識層の膨張の際に、「純粋なエリートとそれに準ずる人間を階層化しようと」したことと合致します。最終行に「自己の立場を鮮明にする道」という表現もあります。

ハはどうか。「反体制的」は、ロシアの「インテリゲンチャ」の特性ですが、その言葉を輸入し短縮型にした、日本の「インテリ」には妥当しません。知識の「特権階級（エリート・少数者）」への「反抗心」ならOKですが、政治的な「革命」と結びつくような「反体制的」ではありません。なお、「観念的な反体制主義」という言葉が出てきますが、これも日本の「インテリ」ではなく、「昭和の学界人（エリート）」の在り方ですからね。したがって、間違い探しの答えの一つとしてこれを選びます。

ニはどうか。「昭和期」の「すぐれた専門家」は、「昭和の学界人」つまり昭和のエリートです。まず、「すぐれた専門家」という表記になっていますが、〝すぐれていない専門家⟷すぐれた専門家〟などという対比はありません。正しい対比喪失の誤

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

りです。さらに「専門家」が「啓蒙家（一般向けに教えを垂れてくれる人）であることを求められた」も本文の記述に一致しません。「求める」という表現について、本文にあるのは「主たる知識の源泉を翻訳と校注と解説に求める人間」とあるだけです。専門家にお願いして「同時に啓蒙家」になってくださいと求めているわけではありません。記述に反する誤りです。細かいことを言うと、岩波文庫「発刊の辞」を書いた岩波茂雄（いわなみしげお）さんは、啓蒙の役割を果たそうとしているのですが、広く「専門家」＝昭和のエリートがそういう役割を果たしたり求められたりはしていないのです。また、本文に「ジャーナリズムを重要な地盤としたエリートも多かった」とありますが、これは「明治一代目のエリート」の特徴であって、「昭和期」のエリートの特徴とは違います。この点からしても、対比混乱の誤りです。間違いの一つとして採用します。

ホはどうか。本文に「専門を越えた総合的知識」や「百科全書的な先輩」という表現がありますが、これらは「明治一代目のエリート」の特徴で、「昭和の学界人」はこれとは異なり「完全な専門家」でしたから、ホの「昭和の学界人は、明治のエリートの広い知識や行動力と結果的には無縁であった」は、妥当ということになります。

へはどうか。新興のインテリの学界人への反抗心は、岩波文庫の発刊の辞にしめされていました。したがって、「インテリは、少数者による知識の独占に反対するのが知識人であると認識していた」は妥当です。

模範解答

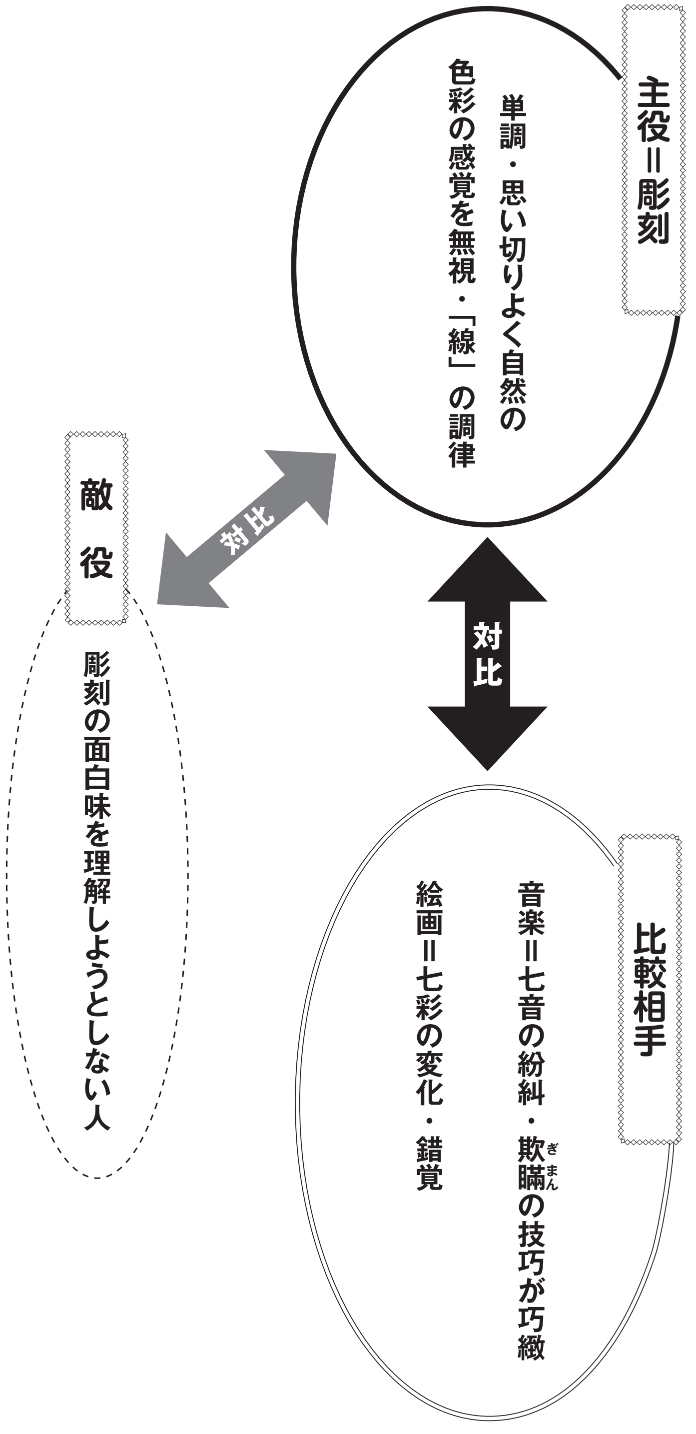
問1＝ロ　問2　知的な中間階層　問3＝ハ・ニ（順不同）　問4　A＝ト　B＝ニ　D＝ハ

問5＝ハ・ニ（順不同）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　政治経済学部　芸術論（近代文語文）

《本文の対比構造》



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《空欄補充・選択肢》

主役である彫刻の説明になるように空欄補充をします。しかも空欄前後で、絵画や音楽と対比させています。「絵画や音楽ほどの表面の魔力に欠けている～人の官能を刺激する要素が至極簡単」、「絵画が七彩の変化により、音楽が七音の紛糾によって神経に快い燃焼を起こさせるのに反して、彫刻は」と語っています。ニの「～単調な面の連続」を選んでしまった人がいるかもしれませんが、×です。なぜなら、空欄の直後に「従って単調の感がある」とあるからです。ニを入れてしまうと〝単調、従って単調〟という同語反復（トートロジーと言います）になってしまいます。同語反復は説明としては不適切で、言い換えてこそ十分な説明になります。〝焼きうどんとは、焼いたうどんだ〟と言っても説明になっていないのと同様です。〝通常、湯がいてのち、ダシの効いたスープとともに供するところを、鉄板で炒めて主にソースで味付けしたうどん〟と言い換えれば、説明です（あーお腹空いてきた）。

ロの「時間を截断(せつだん)した刹那～」はどうか。「刹那」は、次の段落で「音楽が刹那刹那の夢の連続で人を酔わしめる」とあるように、音楽側キーワードです。したがって、対比混乱の誤りですね。

ハの「自然を欺(あざむ)く巧緻な形の技巧」はどうか。ここでは〝自然のありのまま⟷ありのままではない加工〟などは比べられていません。正しい対比喪失の誤りです。また「巧緻な」では、手の込んだ巧みさになってしまい、「簡単」「単調」と矛盾します。事実、第二段落で、音楽について「技巧が余り巧緻に過ぎて」とあります。「巧緻」は比較相手を表現する言葉ですから、対比混乱の誤りと言えます。イの「空間を劃(かぎ)る輪廓の線の波動」が正解です。第二段落の最後に、「『線』の調律ばかりを抽(ひ)き出して来る」という記述があります。人間の銅像を思い浮かべてください。絵画ならさまざまな着色や濃淡で表現するところを、彫刻はドンと人間の形があるのみです。馬にまたがった人の像もそうでしょ。人馬いっしょになったカタマリがズドンとそこにあるのみです。

問２《空欄補充・慣用句の知識問題》

彫刻の魅力がわからない人、わかろうとしない人を猫に例えて、「如何なる名作にも驚かぬのは、［Ｂ］に驚かぬ猫の様なもの

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

である」と表現しています。〝猫に鰹節〟なら、その価値がわかり、まっしぐらに飛びつくでしょう（だから、〝猫に鰹節〟は油断していると食べられちゃうぞ、注意しろという意味）。正解は、〝猫に小判〟という慣用表現をふまえて、「小判」となります。他に〝猫にまたたび〟は、相手の大好物を与えて、メロメロにすること。〝猫の額〟は、土地が狭いことの例え。〝猫も杓子も〟は、どいつもこいつも、そろいもそろって、の意味。〝猫を被る〟は、自分の本性を隠して、大人しくふるまうこと。〝猫跨ぎ〟は、猫でさえもまたいで素通りするまずい魚のことです。

問３《空欄補充・抜き出し》

主役である彫刻を表現する「不思議な日本語」を本文から抜き出します。同じ段落の後半に「不器用」「自然の色彩の感覚を無視」「無神経」など一見すると否定的だけれども彫刻の大胆さをうまく言い表す表現が出てきます。ただし、「四字の形容詞」という指定に合いません。次の段落にやっと出てきます。「彫刻の面白味というものは、この原始的で、大道手品の様に無器用で、あからさまな、大胆な、少し智慧の足らない様な、図々しい所に生命があるのである」がそれです。というわけで、「図々しい」が答えです。

問４《傍線部説明・選択肢》

筆者は、彫刻の不思議な魔力について、一生懸命に語っています。第一段落では、「彫刻を味わおうとするには真に心を傾けてかからねばならぬ」「信じ切ってかからねばならぬ」としています。一方で、彫刻の面白味を理解しない人のことを、小判の価値がわからない「猫の様なもの」として批判しています。こういう「冷淡に構えている人にとっては彫刻はあくまで冷やかです。また、傍線直後の表現によれば、「あかの他人」のような存在としてしか彫刻とは付き合えないわけです。でも、ひとたび「自分を打ち込んだらこれ程心を蕩かすものはない」のが彫刻です。そういうことができる人にとっては、彫刻は「情人（愛人のことです！）」になるのです。現代人にとってはもう、彫刻に対するときは「あかの他人か、情人か。」の二通りの極端な関わり方しかない、と言っているのです。「昔の人」にとっては、彫刻は普通の友だち、つまり「朋友」だったのに、現代人にとってはそうではないということです。したがって、ニ「現代人に対しては彫刻は、通り一遍の関与を許さないので、朋友に対する

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ような穏やかさで対座することができない」が正解です。
他の選択肢を吟味してみましょう。イは、「朋友に対するような親しみと敬意をもって接する」はOKですが、前半の「彫刻は信仰の対象であり」が×です。これじゃ仏像かマリアさまです。「信じ切って」を文字通りとってしまった文脈喪失の誤りです。
ロはどうか。「昔の人のほうが彫刻に全身全霊で打ち込み、朋友と対話するように」が×です。「全身全霊」のような熱中を求めるのは現代人に対してです（それができなければあかの他人でいるほかない）。むしろ、昔の人は「朋友」、友だちのように普通に彫刻と付き合いをもてた、ということですから。これは対比混乱の誤りです。
ハは、まず「孤独のなかで」が×です。〝ひとりっきり⟷仲間がたくさん〟という対比は本文にはありませんから、正しい対比喪失の誤りです。さらに「どんな朋友もその間に介在することができない」は、本文の「朋友」の使われ方から外れていま す。文脈喪失の誤りです。見る人にとっては彫刻は、他人か恋人かという話をしているのに、間に入る人として「朋友」を出してしまってますからね。

問5《全文の理解・選択肢》
本文では、彫刻について「原始的であるから、最も進んだ現代人の心の奥の叫び声と共鳴する唯一の芸術である」としています。さらに「現代人の心は中世期を踏台にして遠くハイエログリフ文字の活用されていた時代と相呼応している。最も文明の進んだ、最も物の解った仏蘭西（フランス）の芸術の中に、ロダンの彫刻あって現代人を魔酔し去っているのは、彫刻のこの性質を最もよく説明しているのである。」とまで言っています。したがって、ハが正解です。
他の選択肢を吟味してみましょう。イは「表面的には〜が、見ることのできない内部においては」という対比を出していますが、本文にはない対比です。正しい対比喪失の誤りです。しかも「見ることのできない内部においては、きわめて繊密で複雑に構成」が笑えます。上野の西郷どんの銅像も、渋谷のハチ公の銅像も中身は複雑なからくり人形だったのかよ、というような選択肢です。ロはどうか。「石塊や金糞の堆積にすぎないという冷静な視線も、一方では必要である」がしらじらしー！　これは筆者が批判していた立場ですよね。彫刻がわからないヤツラ（おっと表現が乱暴になってしまいました）、彫刻がおわかりになれない方たちですよね。これぞ対比混乱の誤り！

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ニは「石や銅や木などの素材が色彩的で複雑な服装の再現に適さず」と材料のせいにしてますが、そもそも「再現」する意図、「興味」はないのです。物理的スリカエの誤りですな。ホは「表現をつきつめていけばいくほど、実際の形を離れて」が×です。「自然の形の再現」は、趣味・興味・意図にはありませんが、だからといって「実際の形を離れ」る結果になるとはかぎりません。はじめから興味にないのですから。「自然の形の再現でない」からといって「つきつめて」いった先が、変形やデフォルメだということにはならないよ、ということです。記述に反する誤りです。

問６《文学史の知識・記述》

文学史の知識を問うてくるのは、文学部ではなく、政治経済学部の伝統です。

模範解答

問１＝イ　問２　小判　問３　図々しい　問４＝ニ　問５＝ハ　問６　高村光太郎

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

政治経済学部　文学史（近代以降）過去問題総復習の解答

★正解は、囲んだものです。その他、知っておいてもらいたいものについては、吹き出しをつけました。

その1　谷崎潤一郎の作品を選べ。

- **イ　刺青**（正解）
- ロ　草枕　（夏目漱石・余裕派）
- ハ　或る女　（有島武郎・白樺派）
- ニ　夜明け前　（島崎藤村・自然主義）
- ホ　暗夜行路　（志賀直哉・白樺派）

その2　徳富蘆花の作品を選べ。

- イ　細雪　（谷崎潤一郎・耽美派）
- ロ　檸檬　（梶井基次郎）
- **ハ　不如帰**（正解）
- ニ　虞美人草　（夏目漱石・余裕派）
- ホ　金色夜叉　（尾崎紅葉・硯友社）

その3　与謝野鉄幹・晶子の新詩社が刊行していた雑誌を選べ。

- イ　ホトトギス　（正岡子規・高浜虚子など）
- ロ　心の花
- **ハ　明星**（正解）
- ニ　新思潮　（芥川龍之介など）
- ホ　文学界　（北村透谷など）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

その4　夏目漱石の晩年、大正期に入ってから書かれた小説を二つ選べ。

イ　三四郎
ロ　坊ちゃん
ハ　**道草**
ニ　**明暗**　（未完の遺作）
ホ　吾輩は猫である　（デビュー作）

その5　武者小路実篤が活動した文学グループは何か。

イ　自然派　（島崎藤村・田山花袋など）
ロ　**白樺派**
ハ　明星派　（与謝野鉄幹・晶子など）
ニ　新感覚派　（川端康成・横光利一など）
ホ　新理知派

その6　夏目漱石の「修善寺の大患」以後の作品は何か。

イ　虞美人草
ロ　三四郎
ハ　坊ちゃん
ニ　**明暗**
ホ　吾輩は猫である

その7　永井荷風の作品を選べ。

イ　暗夜行路　（志賀直哉・白樺派）
ロ　細雪　（谷崎潤一郎・耽美派）
ハ　**濹東綺譚**
ニ　夜明け前　（島崎藤村・自然主義）
ホ　李陵　（中島敦）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

その8　日本の自然主義文学運動を代表する作家は誰か。

イ　尾崎紅葉　（硯友社）

ロ　志賀直哉　（白樺派＝学習院大の同人）

ハ　田山花袋

ニ　永井荷風　（耽美派＝芸術至上主義）

ホ　横光利一　（新感覚派）

その9　柳宗悦は、武者小路実篤・志賀直哉らと同人誌を創刊し、人道主義的な立場から芸術運動に携わった。その雑誌名を選べ。（もともとは選択肢なし）

イ　新思潮　（赤門派＝東大の同人）

ロ　白樺

ハ　歴程　（草野心平）

ニ　四季　（中原中也・三好達治など）

ホ　明星　（与謝野鉄幹・晶子など）

その10　俳句・短歌の革新者として知られる明治の文学者は誰か。（もともとは選択肢なし）

イ　夏目漱石

ロ　二葉亭四迷

ハ　坪内逍遥

ニ　正岡子規

また、その筆者の作品を選べ。

イ　赤光　（斎藤茂吉）

ロ　墨汁一滴

ハ　みだれ髪　（与謝野晶子）

ニ　海潮音　（上田敏の訳詩集）

ホ　若菜集　（島崎藤村のデビュー作）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

その11　森鷗外の作品を三つ選び、成立の早い順に並べよ。

- イ　浮雲（二葉亭四迷）
- **ロ　雁**
- ハ　三四郎（夏目漱石）
- **ニ　渋江抽斎**（鷗外晩年の史伝）
- **ホ　舞姫**（鷗外二八歳の作品）

（ホ・ロ・ニ）

その12　「山路を登りながら、こう考えた。智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい」ではじまる、夏目漱石初期の作品名を選べ。（もともとは選択肢なし）

- **イ　草枕**
- ロ　明暗（未完の遺作）
- ハ　三四郎
- ニ　それから
- ホ　門

（ハ・ニ・ホ：前期三部作）

その13　松尾芭蕉の臨終場面を描いた小説『枯野抄』を書いた大正期の作家は誰か。（もともとは選択肢なし）

- **イ　芥川龍之介**
- ロ　田山花袋（『蒲団』『田舎教師』など）
- ハ　川端康成（ノーベル文学賞）
- ニ　大江健三郎（ノーベル文学賞）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

その14　哲学者、和辻哲郎（わつじてつろう）の著作を次の中から二つ選べ。

イ　東洋の理想　〔岡倉天心（おかくらてんしん）〕

ロ　日本への回帰　〔萩原朔太郎（はぎわらさくたろう）〕

ハ　風土（ふうど）　［正解］

ニ　出家とその弟子　〔倉田百三（くらたひゃくぞう）〕

ホ　陰翳礼讃（いんえいらいさん）　〔谷崎潤一郎（たにざきじゅんいちろう）〕

ヘ　鎖国（さこく）　［正解］

ト　「いき」の構造　〔九鬼周造（くきしゅうぞう）〕

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

政治経済学部　文学史（近代以降）予想問題の解答

その1　『あこがれ』『一握の砂』『悲しき玩具』などの詩集や歌集を残した近代の歌人は誰か。

イ　夏目漱石　　ロ　森鷗外　　**ハ　石川啄木**　　ニ　武者小路実篤

その2　夏目漱石の門下生で、『羅生門』『鼻』『芋粥』など日本の古典を下じきにした作品を書いた小説家は誰か。

イ　斎藤茂吉　　ロ　樋口一葉　　ハ　柳田国男　　**ニ　芥川龍之介**

その3　近代の文学理論書で言文一致を説いたものはどれか。

イ　『歌詠みに与ふる書』　　**ロ　『小説神髄』**　　ハ　『小説の方法』　　ニ　『「いき」の構造』

その4　日本人初のノーベル文学賞受賞者は誰か。

イ　川端康成　　ロ　湯川秀樹　　ハ　大江健三郎　　ニ　村上春樹

その5「東海の小島の磯の白砂に／われ泣きぬれて／蟹とたはむる」などの短歌を収録した石川啄木の歌集はどれか。

イ　『智恵子抄』　　ロ　『道程』　　ハ　『春と修羅』　　**ニ　『一握の砂』**

その6「のど赤き玄鳥ふたつ屋梁にゐて足乳ねの母は死に給ふなり」などの短歌を収録した斎藤茂吉の歌集はどれか。

イ　『赤光』　　ロ　『みだれ髪』　　ハ　『別離』　　ニ　『鍼の如く』

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

その7「鶏頭の十四五本もありぬべし」などの写生句で知られる正岡子規が創刊に関わった雑誌はどれか。

イ『文学界』　ロ『新思潮』　**ハ『ホトトギス』**　ニ『歴程』

その8　明治時代、夏目漱石の初期の作品で、「親譲りの無鉄砲で小供の頃から損ばかりしている」ではじまる小説はどれか。

イ『細雪』　ロ『それから』　ハ『こころ』　**ニ『坊ちゃん』**

その9　明治時代、森鷗外の作品で、ドイツ留学の経験をふまえた小説はどれか。

イ『渋江抽斎』　ロ『高瀬舟』　**ハ『舞姫』**　ニ『風土』

その10　大正時代、白樺派の志賀直哉によって書かれた自伝的な小説はどれか。

イ『城の崎にて』　ロ『蒲団』　ハ『蟹工船』　ニ『李陵』

その11　昭和初期、四季派に属する中原中也によって発表された詩集はどれか（二つ）。

イ『山羊の歌』　**ロ『在りし日の歌』**　ハ『一握の砂』　ニ『若菜集』

その12　日本人としては二人目のノーベル文学賞受賞者である大江健三郎の小説はどれか。

イ『沈黙』　**ロ『飼育』**　ハ『伊豆の踊子』　ニ『雪国』

その13　明治時代、雑誌「ホトトギス」に掲載された夏目漱石のデビュー作はどれか。

イ『吾輩は猫である』　ロ『三四郎』　ハ『明暗』　ニ『枯野抄』

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

その14　大正時代、『今昔物語集（こんじゃくものがたりしゅう）』などの古典をもとにして、人間心理を表現した芥川龍之介（あくたがわりゅうのすけ）の作品はどれか。

イ『檸檬（れもん）』　ロ『山椒魚（さんしょううお）』　**ハ『鼻（はな）』**　ニ『風立（かぜた）ちぬ』

その15　川端康成（かわばたやすなり）の代表作で、「道がつづら折りになって、いよいよ天城峠（あまぎとうげ）に近づいたと思う頃」ではじまる作品はどれか。

イ『雪国（ゆきぐに）』　ロ『陰翳礼讃（いんえいらいさん）』　**ハ『伊豆（いず）の踊子（おどりこ）』**　ニ『或（あ）る女（おんな）』

その16　東北地方の農学校に勤めつつ多くの詩を残した宮沢賢治（みやざわけんじ）の童話はどれか。

イ『銀河鉄道（ぎんがてつどう）の夜（よる）』　ロ『暗夜行路（あんやこうろ）』　ハ『田舎教師（いなかきょうし）』　ニ『蒲団（ふとん）』

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　解答　第一講

（ア）③　（イ）①　（ウ）④　（エ）⑤　（オ）③
（カ）①　（キ）②　（ク）②　（ケ）④　（コ）③

解答漢字一覧

（ア）旅程表　（イ）搬出口　（ウ）一環　（エ）近郊　（オ）余興
（カ）翻案　（キ）合成　（ク）妄想　（ケ）境涯　（コ）進展

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　解答　第二講

（ア）④　（イ）②　（ウ）⑤　（エ）①　（オ）④
（カ）②　（キ）③　（ク）②　（ケ）⑤　（コ）④

解答漢字一覧

（ア）書簡　（イ）精密　（ウ）透視　（エ）応報　（オ）痕跡
（カ）模索　（キ）懊悩　（ク）洞察　（ケ）観測　（コ）連鎖

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　解答　第三講

（ア）⑤　（イ）③　（ウ）①　（エ）②　（オ）④
（カ）③　（キ）④　（ク）②　（ケ）①　（コ）⑤

解答漢字一覧

（ア）節操　（イ）固持　（ウ）四囲　（エ）先駆者　（オ）権威
（カ）陣営　（キ）命題　（ク）講義　（ケ）克服　（コ）原稿

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　解答　第四講

（ア）①　（イ）③　（ウ）②　（エ）③　（オ）⑤
（カ）④　（キ）④　（ク）③　（ケ）②　（コ）①

解答漢字一覧

（ア）相称　（イ）契機　（ウ）装飾　（エ）空虚　（オ）集約
（カ）遭遇　（キ）内省　（ク）対峙　（ケ）判然　（コ）意表

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　解答　第五講

（ア）②　（イ）④　（ウ）②　（エ）④　（オ）①
（カ）⑤　（キ）⑤　（ク）④　（ケ）③　（コ）②

解答漢字一覧

（ア）階層　（イ）構図　（ウ）膨張　（エ）進取　（オ）源泉
（カ）啓蒙　（キ）執筆　（ク）孤高　（ケ）信条　（コ）観念

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　解答　第六講

（ア）③　（イ）⑤　（ウ）③　（エ）⑤　（オ）①
（カ）①　（キ）③　（ク）④　（ケ）①　（コ）①

解答漢字一覧

（ア）官能　（イ）催眠術　（ウ）侮蔑　（エ）巧緻　（オ）賠償
（カ）無神経　（キ）冷淡　（ク）脈拍　（ケ）雄弁　（コ）不器用

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⓒ RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。